

学則の変更の趣旨等を記載した書類

■ 目 次 ■

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容	1
イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性	2
（ア）設置の趣旨と必要性.....	2
（イ）養成する人材像と教育上の目的.....	10
（ウ）既設学部における入学定員変更の必要性	17
ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	19
（ア）教育課程の編成の考え方及び特色	19
（イ）教育課程における既設学部への影響.....	27
（ウ）教育方法、履修指導方法及び卒業要件	28
（エ）教員組織の編成の考え方及び特色	40
（オ）教員組織における既設学部への影響.....	46
（カ）施設、設備等の整備計画	47

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

平成 29 年度入学生（編入学生は平成 31 年度）から、本学の各学部学科の入学定員、編入学定員及び収容定員を下表のとおり変更する。

（単位：人）

学部	学科	現行			変更後		
		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
農学部	農学科	220	16	912	220	16	912
	畜産学科	180	10	740	180	10	740
	バイオセラピー学科	140	10	580	140	10	580
応用生物 科学部	バイオサイエンス学科	140	10	580	0	0	0
	生物応用化学科	140	10	580	140	0	560
	醸造科学科	140	20	600	140	0	560
	食品安全健康学科	140	10	580	140	0	560
	栄養科学科	120	4	488	120	0	480
生命 科学部	バイオサイエンス学科	－	－	－	140	0	560
	分子生命化学科	－	－	－	115	0	460
	分子微生物学科	－	－	－	115	0	460
地域環境 科学部	森林総合科学科	140	6	572	120	0	480
	生産環境工学科	140	3	566	120	0	480
	造園科学科	140	20	600	120	0	480
	地域創成科学科	－	－	－	80	0	320
国際食料 情報学部	国際農業開発学科	140	10	580	140	0	560
	食料環境経済学科	220	10	900	180	0	720
	国際バイオビジネス学科	170	5	690	140	0	560
	国際食農科学科	－	－	－	100	0	400
生物産業 学部	生物生産学科	100	10	420	100	10	420
	アクアバイオ学科	80	0	320	80	0	320
	食品香粧学科	80	12	344	80	12	344
	地域産業経営学科	90	5	370	90	5	370
合計		2,520	171	10,422	2,800	63	11,326

イ．学則変更（収容定員変更）の必要性

（ア）設置の趣旨と必要性

<生命科学部>

1. 建学の精神と教育の理念

本学は、国内で唯一の農学系の総合大学として、「食料・環境・健康・エネルギー」のコンセプトを掲げ、21 世紀における地球規模での課題を解決する人材の養成をミッションとしている。「稲のことは稲に聞け、農業のことは農民に聞け」との初代学長横井時敬のことばのもと、「人物を畑に還す」を建学の精神とし、「実学主義」を教育の理念とする。

本学は、明治 24（1891）年に榎本武揚により徳川育英会育英農科として創立以来、120 余年にわたり日本の農学分野の人材育成に積極的に努めてきた。永らく農学部 1 学部の組織であったが、社会の変化とニーズに対応するため、平成 10（1998）年に組織の大改革を行い、農学部、応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部及びオホーツクキャンパスの生物産業学部と合わせ 5 学部の体制を整えた。これにより、農学分野の各学問領域をカバーし、また地域の特性を生かした教育研究を行い今日に至っている。

2. 農学分野の新段階

平成 10（1998）年の改革では、応用生物科学部において、生物応用化学科、醸造科学科、栄養科学科と新たにバイオサイエンス学科を設置し、農学分野の学問領域の広がり、遺伝子研究の導入といった新分野の登場にいち早く対応する教育体制を整えた。その後約 20 年が経過し、応用生物科学部は本学において多くの志願者を得、また人材の養成に貢献してきた。一方で、世の中の技術革新のスピードや、生活スタイルの変化、農業技術の変化など、農学分野を取り巻く環境は、新たな段階を迎えている。それは、植物や動物、微生物といった農学分野で扱う生物において、非モデル生物と呼ばれる生物種の解析が可能になってきたことである。これにより、それぞれの生物において遺伝子機能を解析し、あるいは遺伝子と生物機能を結びつける研究が可能となってきた。

3. 大学に対する社会的要請

大学に対する社会的要請の面では、平成 17 年 1 月 28 日付けで中央教育審議会より答申された「我が国の高等教育の将来像」また平成 24 年 8 月 28 日付けで答申された「新たな未来を築くための大学教育の質的変換に向けて」、さらには平成 25 年 4 月 25 日付け答申の「第 2 期教育振興基本計画」において、現在の日本社会の状況及び持続的な将来発展にむけた社会像、人材像が記載されている。そこでは、現在の我が国の社会は、知識基盤社会へと移行し、新たな知の創造・継承・活用が社会の発展の基盤として必要であると捉えられ、想定外の事態に遭遇した時に、そこに存在する問題を発見し、それ

を解決するための道筋を見定める能力が求められている。このような能力は、物事の原理や仕組みといった基礎的な事象を正しく把握して論理的に問題を考察し、それに対応することにより発揮される。

4. 設置3学科の役割

本学では、このような農学分野の教育、研究を取り巻く社会的状況と新規技術の登場を踏まえ、この分野において生物生産科学から生命科学までの分野を取り込み、さらなる発展と人材の養成を行うことで社会に貢献することを目指している。そのために、生命科学部を新たに設置し、バイオサイエンス学科、分子生命化学科、分子微生物学科の3学科を設置することとした。

バイオサイエンス学科では、生命の高次機能解析を遺伝子・分子レベルで解析することで、生物の仕組みに基づく応用に繋げることを可能にする。

一方で、生物機能、遺伝子機能解析が進展することで、生物中の一次代謝物、二次代謝物といった低分子性有機化合物の研究が不可欠となっている。生命現象は、多数の化学反応から成り立っており、生物を作り出しているのは化学物質であるともいえる。また、個々の生物をつくり出すのみならず、生物に対し、あるいは生物間において作用を引き起こす機能も有している。そこで、**分子生命化学科**では、有機化合物の解析、設計、合成を研究し、生物機能を化合物との関連から解明することを目指す。

また、高等生物は多細胞生物であるが、それらの機能はひとつひとつの細胞から成り立っている。そこで、**分子微生物学科**では、その基礎となる単細胞微生物を解析することにより、生物の基礎的な仕組みの解明を行うと共に、高等生物が生育するために微生物との共生が必須であることを踏まえた研究と応用への展開を行う。

5. 地球規模の課題解決に貢献

「稲のことは稲に聞け」のことばの如く農学は生物との対話からなる学問である。本学では、生物を知ること、それを利用し、応用するための体系を学修するシステムを構築、運用してきた。今までの生産科学を中心とする農学分野は、将来に向け、より広範な領域に展開することでさらなる発展と社会への貢献が可能である。生命科学はそのなかで重要な役割を担っている。すなわち、生物の仕組みを詳細に解析し、化学、生物情報を適確に生物に適用できる知識及びその体系化ができる能力を有する人材がますます求められる。このような農学分野の技術的革新、人材育成の社会的要請に応え、地球規模の課題解決に本学がさらなる貢献を目指すために、「生命科学部」の設置を構想した。

<生命科学部 バイオサイエンス学科>

1. 人類の発展におけるバイオサイエンスの役割

人類は、現在、食糧、健康、資源、環境にそれぞれ重大な問題を抱えており、その解決は急務となっている。バイオサイエンスを中心とした科学技術の進歩はこれらの問題

解決に大きく貢献できると考えられ、このためには、バイオサイエンスの発展、応用、また技術利用に携わる人材の育成が必要不可欠である。

地球上には、180 万種以上の多様な生物が存在している。これらの生物は、地球誕生から 46 億年の間に様々な環境下で生存できるように進化してきた。しかし、その生物群の特異的機能の多くは明らかにされておらず、現在までに同定された生物機能ですらその分子基盤の根本理解には至っていない。さらに、高等動物の高次機能の分子機構に関しては、未だ謎に包まれているのが現状である。このような生命現象、そしてそれを生み出す生物機能の解明は、生物そのものを理解する上で重要であるばかりでなく、生物機能の発現原理を利用することで、食糧増産・環境保全・健康問題の解決につながると考えられる。

2. バイオサイエンスに対する社会的要請

政府は、第 2 期科学技術基本計画（平成 13 年～17 年度）において、21 世紀の科学技術を巡る展望として、「1）人類の生活、経済社会の発展にいっそう貢献する」、「2）技術革新により高い生産性と国際競争力をもつ産業を育て経済活力を回復させる」、「3）発展途上国を含めた世界全体の持続的な発展を実現し、人類の明るい未来を切り開く」、などを挙げている。それを踏まえて第 2～3 期科学技術基本計画（平成 13 年～22 年度）では、重点推進 4 分野の一つとして生命科学（ライフサイエンス）が推進されて来た。さらに、第 4 期科学技術基本計画（平成 23 年～27 年度）では、東日本大震災から復興・再生を遂げ、将来にわたる持続的な成長と社会の発展に向けたグリーンイノベーションやライフイノベーションといった科学技術イノベーションを戦略的に推進することを基本方針とし、科学技術に関する基礎研究の抜本的強化と科学技術を担う人材育成の強化を目標に掲げている。これらは、今後激化する国際競争を勝ち残るためには、生命科学の研究発展とそれを担う人材の育成が不可欠である、と我が国が考えていることに相違ない。そのためには、農学においても、理学・薬学・医学・工学とも共有する食糧、環境、健康に関する問題点の解決を、農学を基盤として発信する人材の育成が求められている。さらに、このような現在のニーズに、本学の建学の理念である「実学主義」のエッセンスが加われば、より独創的な人材を社会に輩出できると考えられる。

3. バイオサイエンス分野の新たな展開に向けて

本学では、平成 10（1998）年、全国の大学に先駆けて応用生物科学部バイオサイエンス学科を設置し、生命現象とその作動原理を理解し、生物機能を応用して社会貢献を目指す生命科学の研究教育に従事してきた。その後、農学系領域において生命科学に関連する学部・学科が設置されて来たことは、本研究領域が時代に必要とされてきたことの表れである。しかし、現在、生命科学がカバーする研究内容は多様化、複雑化、そして膨大化する一方であり、また、生命科学研究領域では、国際的な競争が益々加熱している。さらに、ここ 10 年来の急激な解析技術の進歩は、生命科学研究に革命を起こしつつあり、また、ビックデータから重要な情報を抽出することも必要とされる時代とな

りつつある。

一方、平成 10（1998）年に設置された応用生物学部バイオサイエンス学科は、微生物、植物、動物の遺伝子群を研究対象としたやや広範な教育研究を目的にスタートしたものの、当初からの教育研究の成熟により、教育研究対象がよりフォーカスされ、基礎研究に止まらず、実質的な応用にも踏み込んだ教育研究の展開に至っている。

以上までの点を鑑みて、これまで本学の応用生物学部バイオサイエンス学科において継続されてきた教育研究をさらに洗練させて、より先鋭化させるために、研究対象を動物と植物にフォーカスし、分子レベルから個体レベルの縦断的な教育・研究体制を確立し、人材を養成することを目指す必要がある。そのため、生命科学部に「バイオサイエンス学科」の設置を構想した。

<生命科学部 分子生命化学科>

1. 若年層に対する大学としての評価・判断

中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて（平成 20 年度）」、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換について（平成 24 年度）」、経団連提言「次世代を担う人材育成に向けられる教育改革（平成 26 年度）」、教育再生会議等において、若年層の主体的思考の低下、基礎力の欠如等が課題となっている。大学の教育現場においては、このような危機的状況に対する解決が求められている。

本学科は、このような社会情勢を背景とし農学・生命科学領域の特殊性を考慮し、「応用展開を可能にする基礎力を有し農学・生命科学分野及び関連した分野の学会・実業界を牽引する人材」の育成を目的として、設置を構想した。

2. 現代社会における農学・生命科学領域の特殊性と学府としての対応、人材・分野

本学創設当時の農学の研究教育対象領域は、農業を主とした食料生産・国土維持等であり、現在でもその重要性は広く認められており、人間の生命と活動を支える食料の安定供給は普遍的な課題である。

一方、この不可欠な農業は特殊な環境を必要としている。農作物生産には、その土地を植物遷移の初期段階に維持することが必要となる。人口・活動範囲が小規模である場合はこの生態系攪乱は問題とならないが、現代の社会状況では様々な問題を引き起こしている。例えば、HIV ウイルス出現も環境問題の一環と捉えることができる。命を繋ぐ技術・手法が命を脅かす存在に成りかねないという二律背反状態が現在である。

このように農学が研究教育対象とする領域は従来の領域に加え生態・環境を見据えた生命科学領域まで拡張が必要であり、教育研究にも反映されるべきである。教育研究の基盤分野としては広領域の諸科学と連携が取れ、かつ生物圏・環境双方の共通最小単位である分子・原子を扱う化学分野が必要となる。

さらに現代社会は広範囲に多様化し、かつ急速な変化を伴っているため、パターン化・パッケージ化された知識・技術では対応が困難である。一時期は対応可能でも直ぐに時代遅れとなる。この状況を打破する有力な打開策として、学生の基礎力向上がある。

基礎知識・技術は本来発展的展開が可能な事象であり、応用不可である場合は表面的な擬似品になってしまう。農学・生命科学領域における基礎は、日常空間では最小単位となる分子・原子を基盤に据えた「化学＋物理学（数学）」である。即ちこれらの基礎は普遍的な妥当性と絶対的な再現性、定量性を有し、かつ分野間では様々な連結が図られているため1つの問題を多様な観点から探求する事が可能となっている。ある課題を分子・原子の課題まで還元できれば原子・分子が仮説として研究された数百年と、実在証明がなされてからの百年の知識の膨大な蓄積が利用可能となる。これらの研究成果は主に大学でなされた物であり、最高学府である大学において農学・生命科学の基礎学科として化学分野を専らにする学科の設置は、社会情勢に照らしても相応しい。19世紀中盤以降、ヨーロッパ各国における農学科の隆盛も Liebig、Haber、Bosch 等の化学的成果をバックグラウンドとしており現在に至っているが、農学の黎明期は分子・原子の存在は仮説であった。実在証明がなされ百年が経過した現在、時代に相応した形態にむけて農学に変化を加えるのは自然な流れである。

このように、現代に即した農学である農学・生命科学領域において、化学的知識に基づいた展開可能な基礎力を駆使し、様々な案件に対応可能な人材は不可欠な存在である。そのような人材を養成することを目的とし、「分子生命化学科」の設置を構想した。

＜生命科学部 分子微生物学科＞

1. 微生物の人類への貢献と新たな可能性

我が国では、味噌や醤油などの発酵食品や日本酒など酒類の生産、その他、微生物の利用において古い歴史と優れた技術を持っている。さらに過去半世紀に亘り、微生物による発酵を利用したうまみ調味料やアミノ酸の安定供給、微生物からの抗生物質や抗がん剤、その他の生理活性物質の発見など、世界中の人々の栄養や生育増進に大きく貢献してきた。これら日本の微生物利用における先駆的な研究は、本分野を切り開いてきた先人の先見の明とたゆまぬ努力によるところが大であることは言うまでも無い。しかし、微生物を限りある資源と捉えた場合、自然界から有用な微生物を単離し、活用するという従来通りのアプローチだけでは自ずと限界があり、その限界を打ち壊すようなブレークスルーも期待されている。

そのような中、今世紀に入り、微生物学の様々な分野で、資源としての微生物の概念を大きく覆すような発見や技術革新が立て続けになされた。数十億塩基対のDNAを数日間で解読するDNAシーケンサーの開発・普及と、そこから得られる膨大な情報を効率よく利用するためのバイオインフォマティクスを基盤とするゲノム解析技術の急速な発展により、生物体内で起こっている生命反応を網羅的、かつネットワークとして扱えるようになった。また同技術により、従来99%以上が単離不能であった天然の微生物集団から、培養を経ずしてそれらが持つ膨大な数の遺伝子を根こそぎ取得・同定するメタゲノム研究が確立し、遺伝子資源として利用可能な微生物が飛躍的に増加した。同時に様々な生態系中では、多様な微生物が協調して物質の分解や資化、産生を行うことにより、互いの生存に好ましい環境を作り上げる「共生」という概念に、分子生物学的な基

盤が与えられ、従来のような単離された微生物だけでなく、複合的な微生物集団を利用するという新たな微生物利用の道も開かれた。加えて、これまで有効利用できなかったバイオマスの分解・資化、藻類による油の生産など、文字通りの資源の生産にも微生物を用いる技術が革新をもたらしつつある。また、動物においては腸管に共生する微生物群の解析が進み、これらの腸内細菌群の種類や構成、それらによって作り出される腸内環境が疾病にも深く関与するなど、予想もしなかった微生物の関与が明らかになりつつある。そしてごく最近、試験管内で完全合成された DNA をゲノムとして持つ微生物の創製が報告されるに至り、資源としての微生物の可能性は数十年の時を経て、再び限りない広がりを感じさせるようになっている。

2. 分子微生物の重要性

このような、従来の枠を大きく超えた微生物利用技術の爆発的な進展と概念の転換は、食料や健康、資源、エネルギー、環境など、21 世紀の人類が抱える多くの問題を解決する上で極めて重要である。とりわけ、天然資源に乏しい我が国が、微生物を資源として国益を得つつ、世界的な問題の解決に貢献して行くためには、日本が優位性を持つ伝統的な技術を継承しつつ、それに先端の解析技術を融合し、微生物の生命現象を分子のレベルで完全に理解し、人為的に制御することにより、微生物の持つポテンシャルを最大限に引き出すことが鍵となる。

こうした社会的背景と必要性から、未知なる微生物の単離や、その生態や機能、微生物同士、あるいは宿主との相互作用の解明といった多角的なアプローチとその統合による新たな微生物資源の創出を大きな目的とし、さらにそのような研究を将来にわたって持続的に発展させていく人材の養成が重要な使命と考え、「分子微生物学科」の設置を構想した。

<地域環境科学部 地域創成科学科>

1. 地域活性化の課題

平成 26 年の「まち・ひと・しごと創生法」の施行を受け、「地方創生」の号令の下、人口減少による急速な少子高齢化への対応、東京圏への過度な人口集中の是正、地域の特性に即した地域課題の解決、多様な就業機会の創出を目指した各省庁や地方自治体の動きが活発化している。

地域を活性化するためには、水資源や食料生産、環境保全など農山村地域が多く担っている多様な機能を維持していく必要があり、持続性のある農林漁業経営の育成や六次産業化など、農業を中心とした産業振興を進めていくことが基本となると考えられる。また、里山等の農山村地域の自然環境は、人間が継続的に利用することによって維持されてきた二次的自然環境であるため、農山村地域を維持していくことは、連綿と育まれてきた自然環境の多様性や、それらに根ざした伝統芸能や歴史的資産等の生活文化の多様性などの観光資源も維持されることを意味している。

一方で、「国土の長期展望 中間とりまとめ」（国土交通省）によると、人口減少社会

の到来によって一人あたりの行政コストが上昇するため、国土基盤である種々の社会資本ストックの更新・維持管理投資にかかる一人当たりの費用は、人口の少ない地域ほど増大すると指摘されている。また、地球温暖化に伴う気候変動に起因する豪雨の頻発等によって、全国的に地震災害や土砂災害、洪水などの災害リスクが高まっているといわれていることから、地域経済の活性化を図っていくためには、農業を中心とした産業振興だけでなく、適切かつ合理的に社会資本ストックを維持管理し、ソフト・ハード両面において安心安全な生活基盤を提供することが重要である。

2. 地域創成科学科設置の必要性

本学部では、担い手不足が深刻化している農山村地域の活性化を模索するために、平成23年2月に「ひとづくり（教育論）」、「ものづくり（技術論）」、「ことづくり（計画・政策論）」の視点に基づいた「地域づくりシンポジウム」を主催し、地域づくりを行う上で地域環境科学が果たすべき役割について議論した。本学部では、源流域から中山間地域を経て平野部に至る農山村地域、都市地域を対象とし、林学・農業工学・造園学の3つの学問分野において個別のフィールドで地域環境、地域資源の保全・利用等に関する教育研究を行ってきたが、広範囲におよぶ農山村地域を対象として当該地域の保全・再生、持続的発展を図るためには、林学・農業工学・造園学の教育研究において数十年に亘って培ってきたノウハウを結集させ、学部横断的に「表-イ.1」に示すような新しい教育研究システム（学問分野）を構築する必要があるとの認識に至った。そして「地域創成科学」と名付けた林学・農業工学・造園学を横断的に扱う新たな学問領域において、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、農業基盤に関連する防災を含む保全・管理技術、環境アセスメント手法やそれらを連携する事業、地域マネジメント手法、環境教育といった教育研究体制を構築するとともに、「ひと・もの・ことによる持続可能な地域づくり」を目指すこととした。

表-イ.1 これからの地域環境科学の学問分野・対象フィールド

学問分野	林学	農業工学	造園学
	横断的な新しい学問分野（地域創成科学）		
フィールド	山地～中山間地	中山間～平地の農業地域	農業地域～都市地域
	農山村地域（山地～中山間地～平地の農業地域）		

現在、「地域創成」あるいは「地域創生」を冠とした学部・学科を有する大学は全国に幾つか存在する。しかし、これらの多くは経済学を母体とした社会科学系のもので、農学を母体としたものは極めて少ない。また、農学を母体としたものは、農業の六次産業化に焦点をあてたものが多く、本学部が目指してきた「ひとづくり」、「ものづくり」、「ことづくり」を融合させた教育・研究体系を有する大学は無い。このことより、既存の地域環境科学に関連する幅広い知識と技術及びマネジメント能力を持った地域社会の担い手となる人材の育成し、本学初代学長・横井時敬の示した建学の精神「人物を畑に還す」を具現化した「地域社会の担い手・地域のリーダーの育成」を目的として、本

学部には森林総合科学科、生産環境工学科、造園科学科に次ぐ第4の学科として「地域創成科学科」の設置を構想した。

＜国際食料情報学部 国際食農科学科＞

1. グローバル社会における食と農の課題

進展するグローバル化を背景に、世界の食と農は相互に関連し合う複雑なシステムとなっており、地球規模での気象変動や農業生産地の災害、各国の政治情勢や経済状況の変化等が、世界の食と農に直ちに強い影響を与える状況になりつつある。このようなグローバル社会において、世界規模での農産物流通の実態や、食に関わる格差の問題が注目される一方で、食と農に関わる地域性、多様性、個別性への関心も高まり、その継承の重要性が認識されるようになってきている。

日本においても、近年、「和食」のユネスコ世界無形文化遺産登録、「能登の里山里海」等の世界農業遺産登録等々を通じて、伝統的な食農文化に対する国民的な関心が増大しつつある。また、平成27（2015）年開催のミラノ国際博覧会（テーマ「地球に食料を、生命にエネルギーを」）での日本館の評価にも見られるように、世界の人々からの日本の食や農業農村への関心が高まり、農林水産省では農産物や食品の輸出促進だけでなく、食と農のインバウンド需要を地域活性化に活かそうとする戦略を展開している。

食農文化の継承や世界へ向けての発信を促進していくにあたり、食農教育の重要性に対する認識が深まるとともに、担い手育成が急務の課題となっている。食農文化の基盤である日本農業においては、衰退の危機が叫ばれつつも、若手農業経営者の世界を視野に入れた経営展開も見られるようになってきている。また、U・Iターン就農を目指す若者たちや、帰農を志す社会人たち、さらに、過疎化・高齢化の進む地域社会の貢献に役立ちたいと考える若者たちも増加している。また、地域創生が必要とされる中、農村女性起業等が一層注目され、六次産業化による食と農に関わる産業の振興に期待が集まっている。地域における多様な食農資源をコーディネートすることにより、商品の開発や文化発信に結びつけていく能力を若い世代が獲得することが地域社会活性化のために望まれる。

2. 国際食農科学科設置の必要性

以上の観点を踏まえつつ、食農分野の担い手となる人材の輩出や、その経営や活動の世界展開を実現するためには、食と農についての技術・社会・文化の視点からの総合的な理解を前提に、地域、人、文化を総合的にマネジメントし、食農教育等を通じて広く国内外へ発信できる能力を持つ人材の育成を行うことが社会的な要請である。食と農に関わるあらゆる科学、すなわち生産から加工・流通さらに消費に至るまでを包括的に学修し、文化や社会の側面についても幅広く知識を得ることができ、さらに実践的な要素の高い教育課程が今後益々必要になると考え、「国際食農科学科」の設置を構想した。

(イ) 養成する人材像と教育上の目的

<生命科学部>

1. 養成する人材像

平成 16 (2004) 年 1 月に財団法人大学基準協会が発表した「農学教育に関する基準」では、農学について、多様な生物種が共生する環境の中で、食料や生物資材の持続的再生産、生物資源遺伝の保全、人間社会と環境との調和、環境保全及び修復等に関わる科学技術を発展させることを通じて、社会文化を進展させ、人類と地球生態系の永続と福祉に貢献することを理念とすることを記している。人材養成においては、生物生産、生命、環境等に関する体系的知識を核とする総合科学であり、生物、環境、自然並びに人間の生物生産活動に関して専門知識を有し、農林水産関連産業並びにそれに関わる人間社会と人工・自然生態系を、地球規模から分子規模までの広い視野で考究できる人材を掲げている。また、学生の個性と学習意欲を高めつつ、社会に生きる人間としての幅広い教養と豊かな人間性、とりわけ生命・生物環境等に対する哲理と倫理を有した人材の養成を掲げている。

文部科学省では平成 27 年 3 月 13 日付けで「理工系人材育成戦略」を発表し、4 つの活躍、「新しい価値の創造及び技術革新」「起業、新規事業化」、「産業基盤を支える技術の維持発展」「三次産業を含む多様な業界での力量発揮」を掲げている。このような状況において、農学では、グローバル化の進む社会において、一次産業から六次産業にいたる多様な業界での力量発揮を可能にする人材を育成することが求められることになる。

本学では「独立不羈」を人間形成の目標として掲げている。すなわち、自らが問題を発掘し、解決策を見出し、行動する能力を備えた人材を養成することを目指している。上述のような社会的要請をふまえ、本学の教育理念である「実学主義」と、建学の精神である「人物を畑に還す」を基礎として、社会に貢献する人材の養成が本学部の基本である。

近年の知識の集積に伴い、科学技術の進歩は著しい。一方で、生物や生態系については、未だそれらの仕組みを解明する途上にあり、複雑さを増している。これは、従来の「生物生産科学」を核とした農学から、深化・多様化を伴い、学術の高度化、多様化、国際化の進展により、その学問領域の拡大が進んでいることを意味している。そのような社会的状況をふまえ、本学部では、多様な生物をミクロからマクロまで統合的に捉えることで、その仕組みを明らかにしていく。

そのための教育研究を通じて、汎用的な基礎力と専門的な応用力を磨き、知識・技術・経験をもとに、自ら問題発見と解決方法を見出すことに挑戦し、倫理観をもって社会に貢献できること、専門分野の知識や思考方法を生かして社会に貢献できる人材を養成する。

2. 教育上の目的

このような人材を養成するために、農学における生命科学の基礎を学修し、バイオサイエンス学科、分子生命化学科、分子微生物学科の各学科において、専門、応用分野の学修を深める。また、化学分子情報やゲノム情報のような仕組みに基づき、多様な生物を分子、細胞、個体からなるシステムとして論理的、統合的に捉えるための能力を習得させる。

これにより、汎用的な基礎力と専門的な応用力を習得すること、加えて広い視野のもと、自ら問題の発見と解決方法を導きだすことに積極的に取り組み、農学及び関連分野において活躍、社会に貢献できる能力を習得させることを教育研究上の目的とする。

<生命科学部 バイオサイエンス学科>

1. 養成する人材像

近年の地球規模での食糧・健康・環境に関わる諸問題の解決には、生命現象の解明が必要不可欠である。本学科は、分子レベルで生命現象を解明し、生物の基本構造と動的・高次構造の理解と応用とを目指した研究教育を行う。研究教育を通じて、生命に係する地球規模での諸問題を理解し、積極的に解決できる人材養成を目指す。

本学科の教育分野は、動物、植物、細胞分子機能の3領域からなる。動物分野には、動物分子生物学的研究室と動物発生工学的研究室を、植物分野には植物遺伝子工学的研究室と植物分子育種学的研究室、細胞分子機能分野には、機能性分子解析学的研究室と細胞ゲノム生物学的研究室を配置する。動物領域では、動物個体における脳高次機能や生殖細胞形成機構・個体形成機構を解明し、医療や畜産への応用を目指す。植物領域では、植物の持つストレス耐性や生産性を向上させることを目的に、基礎研究から有用作物育種の実用化を目指す。細胞分子機能領域では、細胞増殖の観点から多様な細胞の根幹的機能を理解するとともに、新規代謝ネットワークの解明・構築、新規有用物質の開発とその利用を目指す。教育の特色は、生物と化学を基盤として、生体内または細胞内での生命現象を分子機能の観点から理解する生命科学を修得させ、農学や関連する産業に適応できる専門家を養成することにある。さらに、食糧、健康、環境に関する問題点を認識させ、それら問題解決に貢献する意識を植え付け、実践的な応用力を育てる教育プログラムを配している。このようなプログラムを遂行することにより、本学の教育理念である「実学主義」に基づく教育体系を実施し、様々な問題をグローバルな視点で解決できる人材を養成する。

2. 教育上の目的

バイオサイエンス分野の研究は、日進月歩であり、国内だけでなく国際レベルでの競争の中、遂行されている。最新情報に敏感でなくてはならず、それらの情報収集には、英語の習得は必要である。そのため、英語の理解力を養わせ、卒業論文作成に必要な英語論文の読解能力を身につけさせるカリキュラムも重視する。また、研究を遂行す

るにあたり、得られた結果を客観的に評価し、教員や研究室の仲間とディスカッションする能力が求められる。しかし、近年インターネットの普及に伴うソーシャルネットワークサービスを利用する学生が増加し、協調性や対人関係を構築できない学生が多く見られるようになった。このような現状を踏まえ、集団内でのコミュニケーション能力、リーダーシップ能力、協調性や対人関係を構築し、対外的には十分に情報を発信する能力を備えた学生を養成するべく、グループディスカッションにより主体的に解決策を講じる演習を取り入れる。

本学科卒業後の具体的な進路は、資源、エネルギー関連、環境関連、医療機器、研究機器、製薬、食品など多岐に渡る企業の営業職、技術職、研究職に加え、公務員、教員（高等学校・中学校）を想定している。

<生命科学部 分子生命化学科>

1. 養成する人材像

本学科は、農学・生命科学領域で基礎力と応用展開力を有する人材の養成を目指す。人材養成における留意点と社会的要請である社会性・人間性の涵養に関する教育上の目的は次のとおりである。

2. 教育上の目的

（1）人材養成の留意点

知識・技術面においては、基礎力重視の教育課程を学修する事により高い質を有し汎用性をもった能力を習得させる。習得知識・技術の展開である研究・開発活動は人間の所作であるので人間性・社会性の大学における陶冶も考慮する。学生は初等・中等教育の蓄積を持ち大学の教育研究に一步を踏み出すことを考慮し大学教育を効果的に行う。

（2）社会性・人間性の涵養

人間性・社会性は人間関係の中で育成される。本学では卒業論文が必修科目であり、4年次生は1年間研究室で学生生活を送る。化学領域においては、領域の性格上必ず学生間、学生と教員間の共同作業、協力関係が存在し、人間関係について学習する。本学科では、人間性・社会性の更なる涵養を目指し、研究室活動を1年前倒し3年次より部分的に開始することとし、他者との協調関係をより良く実現する能力を習得させる。

（3）持続的な学習と中等教育の有効活用

高校理科と大学科学との関係は、1年次に大学入門科目を数コマ配当し円滑な接続を可能とする。高校理科の復習あるいはリメディアル科目とは異なり、高校課程では十分に到達できなかった概念を原理的事象より時間をかけ、可能な限り平易に教授し、大学入学以前の知識に関しても十分な活用が見込めるよう工夫した教育課程としている。

以上のように本学科の理念・見識・学力を体現し柔軟かつ汎用性を備えた基礎力を有する人材を養成することを教育上の目的とする。

＜生命科学部 分子微生物学科＞

1. 養成する人材像

本学科で養成する人材像は次のとおりである。

- (1) 微生物の機能や、微生物が関与する未知な生命現象を統合的に解析し、その理解に基づく斬新な応用利用法を探究し、生理活性物質探索、食料問題、環境保全、健康維持などに貢献する人材を養成する。
- (2) 社会で活躍するためには幅広い知識を有し、問題に対してその芯を的確に捉え、現実的で適切な対応が必要である。講義で学んだ知識を実地に確認し、応用する能力を身につけた人材を養成する。

2. 教育上の目的

上記(1)の人材を養成するため、従来の微生物学研究の枠を超えて、微生物が関連する生命現象や動植物との共生作用を幅広く学び、研究対象とすることで、最もシンプルな生命体である微生物が有するポテンシャルを最大限に引き出すための方法と技術を開発する教育研究を発展させる。また、生命現象を産み出す基盤となる分子群の構造と機能との関連性を理解し、さらにバイオインフォマティクスを活用することで、本学科における教育研究を進展させる理論的な裏付けを強化する。

具体的には、従来の微生物学教育の基盤であった微生物学、生物化学、分子生物学、分子細胞生物学などに加えて、生物資源工学、食と科学、バイオプロセス工学、応用微生物学、生物環境科学などの応用科目を通じて、生命現象のメカニズムを広く理解し、具体的な応用への接点を見い出す。

また、バイオインフォマティクス、ゲノム情報利用学、先端分子微生物学技術概論を通じて、生物のゲノム情報を始め、最新の実験・解析技術によって取得される膨大な生物情報の効率の良い利用法を学ぶ。さらに、無機・有機化学、生物化学、機器分析学などを通じて、微生物の生態や機能を化学的な視点で考えるための能力を身につける。微生物との共生が宿主である動植物に及ぼす影響についてより深い理解を得るために、動物生理学、植物生理学、植物病理学、免疫・生体防御学など、微生物以外の生物に関する科目も多数配当した。

上記の(2)の人材を養成するため、実験科目の充実を図ることとし、基礎化学実験、分析化学実験、微生物学実験、生物化学実験、分子生物学実験を必修科目として、生物資源工学実験、複合微生物学実験、動物共生微生物学実験、植物共生微生物学実験、バイオインフォマティクス実習を選択必修科目として、それぞれ設定した。また研究全般を遂行するために必要な基礎的な知識の習得を目的とし、生物統計学、実験データ解析概論、英語論文購読などの科目を配当した。

以上の専門分野の科目に加えて、広い教養を身につけるために低学年に英語(一)～英語(四)を必修科目として、さらに英会話、TOEIC 英語、ビジネス英語を選択科目として配当した。また、その他の語学科目としてドイツ語及びグローバル化に伴い世界利

用人口の多い中国語、スペイン語を選択科目で配当した。

この他、生命倫理、企業論、科学と哲学、科学メディア論、日本国憲法、知的財産概論、経済入門、アイソトープ利用論など、より幅広い教養が学べる教育課程を設定した。

＜地域環境科学部 地域創成科学科＞

1. 養成する人材像

本学部は、森林総合科学科、生産環境工学科、造園科学科の3学科から構成され、林学、造園学、農業工学の学問分野を基底とし、生物に対する深い理解に基づいた自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術確立することを目指している。このように、これまでの学部体制は農業や林業、造園業、土木業など「業」に基軸を置くものであったが、本学科ではこれらを横断的に「農」と捉え、農山村地域が抱える課題を解決し農山村地域を再生するためには、二次的な自然環境や生態系を損なうことなく人々の安心・安全な生活を維持できるよう、わが国の伝統的産業である「農」の振興を基軸とした地域の創成が必要であり、その持続性を担保するためには「地域社会の担い手・リーダー」の育成が重要な課題となるとの認識から、以下に示す能力を有する地域創成に資する人材を養成することを目的としている。

- 1) 自然環境、生活環境及び社会環境の関わりについて広い知識と豊かな感性を有する人材
- 2) 観察力、論理的思考能力、高い倫理観を有し、フィールドにおける多様な課題の解決に向けて積極的に行動できる人材
- 3) 生物文化多様性や土地・社会資本の保全、地域振興等の観点から持続可能な地域の創成に貢献できる人材

上記の人材育成像の1)～3)は、入学から卒業に至るまでの時系列上における習得能力に関連しており、1)・2)は教養科目・基礎的専門科目等の履修を通じて育まれる人材像、2)・3)は基幹的専門科目や専門性の高い実験・実習科目、卒業論文を通じて育まれる人材像である。このように、本学科では低学年での教養教育の充実を図るとともに、学科に設置する「自然再生分野」と「地域マネジメント分野」の2つの教育研究分野において、基礎的から基幹的な専門教育を行っていくものである。

2. 教育上の目的

本学科の2つの教育研究分野のうち「自然再生分野」は、源流域から中山間地域を経て平野部に至る「農域」の自然環境を主たる教育研究の対象としており、自然環境の適切な保全・再生手法や生物多様性に配慮した持続可能な生産基盤や生存環境の保全方法など、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、環境アセスメント手法に関連する教育研究を行うことを目的としている。一方「地域マネジメント分野」では、農域における生活・社会環境を主たる対象とし、生活・社会環境の持続可能性を確保するための農業基盤に関連する防災を含む保全・管理技術や、流域連携、都市農村交流などを通じ

た六次産業化事業や地域マネジメント手法、環境教育推進手法に関する教育研究を行うことを目的としている。

＜国際食料情報学部 国際食農科学科＞

1. 養成する人材像

本学部は、「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築及び資源・環境保全と産業発展の共生を図る新しいバイオビジネスの展開等の分野で活躍できる人材を養成することを目的としている。

現在、本学部は、国際農業開発学科、国際バイオビジネス学科、食料環境経済学科の3学科より構成され、それぞれ特色のある教育を行っている。国際バイオビジネス学科、食料環境経済学科の2学科は、主として社会科学系の領域を対象とし、広く社会や文化に対する視線を開きながら、産業発展志向及び経済の研究を基調とした教育研究を行っている。また、国際農業開発学科は、優れた農業技術の開発と国際支援を基調とした研究教育を行っている。

本学部に新設する国際食農科学科は、上述の3学科には存在しない新たな文理融合を目指す。つまり、社会・文化・経済の幅広い価値観と視野を重視しながら、植物の生産技術、食品の加工・調理技術を活かして、地域の食と農を総合的にマネジメントできる人材育成を目指す。具体的には、下図に示す通りである。



図 国際食農科学科の教育課程の特色

2. 教育上の目的

自然科学及び社会科学を含む農学分野の総合性を活かしつつ、日本の多様な地域が伝統的に育んできた固有の食農文化を、食農教育を通じて継承するとともに、より付加価

値の高い農産物等の食材を基にした新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信できる人材を養成することを教育上の目的とする。本学科のこうした教育目標は、本学の中でも類を見ない独創的な特徴であるといえる。

上記を踏まえ、本学科の卒業生は、以下のような人材となることが期待される。

- (1) 日本の多様な食農文化を継承し、より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通など食農事業を展開する実践能力を有する人材
- (2) 地域社会が伝統的に育んできた食農文化を継承し、地域資源の活用をコーディネートし、多様な産業や活動を支援する能力を有する人材
- (3) 食農教育を通じた文化の継承とともに、新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信する能力を有する人材

（ウ）既設学部における入学定員変更の必要性

＜応用生物科学部＞

本学部には、生物応用化学科、醸造科学科、食品安全健康学科及び栄養科学科では、養成する人材、教育研究上の目的、教育課程、教員組織の体制及び入学定員に変更はないが、これまで編入学生の大半をその受入母体としてきた、本学短期大学部を平成 29 年度から学生募集を停止することを前提に、平成 31 年度以降の 3 年次編入学定員を 0 人に変更することとした。

学科名称	入学定員 (変更なし)	編入学定員（3 年次）	
		変更前	変更後
生物応用化学科	140	10	0
醸造科学科	140	20	0
食品安全健康学科	140	10	0
栄養科学科	120	4	0

＜地域環境科学部＞

本学部では、生物に対する深い理解を基調とし、自然と人間の調和ある地域環境の創造と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術確立することを目指し、それに向けてミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題、さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献する人材を養成することを目的としている。

そのため、地域（森林、農村、都市）が有する資源生産的機能（農林業など）と環境循環機能等への理解力を有し、それらを調査・分析・計画・設計・施工・管理・運営できる知識と技術を習得させることを教育研究上の目的としている。

本学部には地域創成科学科を新設するにあたり、既設学科の教育研究上の目的をこれまで以上に高いレベルで達成させるためには、少人数教育によるきめの細かい教育指導が必要不可欠との判断から、下表のとおり、入学定員を減じ、教育研究の質的向上を図ることとした。

あわせて、これまで編入学生の大半をその受入母体としてきた、本学短期大学部を平成 29 年度から学生募集を停止することを前提に、平成 31 年度以降の 3 年次編入学定員を 0 人に変更することとした。

学科名称	入学定員		編入学定員（3 年次）	
	変更前	変更後	変更前	変更後
森林総合科学科	140	120	6	0
生産環境工学科	140	120	3	0
造園科学科	140	120	20	0

＜国際食料情報学部＞

本学部は、「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築及び資源・環境保全と産業発展の共生を図る新しいバイオビジネスの展開等の分野で活躍できる人材を養成する目的とし、次のような能力の習得を目的とする。

- (1) 主として熱帯地域の途上諸国への食料・農業開発のための国際協力に取り組むための能力の習得
- (2) 熱帯生物資源開発と保全のための、先端的技术を活用した熱帯農学の研究と教育を实践できる能力の習得
- (3) 環境保全型世界の食料・農業経済システムと資源循環型社会の構築に取り組むための能力の習得
- (4) 日本と世界の地域特性を活かした共生型農業・農村発展のための社会経済理論の構築と政策提言等に取り組むための能力の習得
- (5) 国際的視野に立つ食料の生産・流通・加工ビジネスとその関連産業からなる新しいビジネス領域としての「バイオビジネス」の起業と経営に、IT 技術を駆使して取り組む国際的感覚の習得

本学部に国際食農科学科を新設するにあたり、既設学科の教育研究上の目的をこれまで以上に高いレベルで達成させるためには、少人数教育によるきめの細かい教育指導が必要不可欠との判断から、学部内で比較的入学定員の多い2学科について、下表のとおり、入学定員を減じ、教育研究の質的向上を図ることとした。

あわせて、これまで編入学生の大半をその受入母体としてきた、本学短期大学部を平成29年度から学生募集を停止することを前提に、平成31年度以降の3年次編入学定員を0人に変更することとした。

学科名称	入学定員		編入学定員（3年次）	
	変更前	変更後	変更前	変更後
国際農業開発学科	140	140	10	0
食料環境経済学科	220	180	10	0
国際バイオビジネス学科	170	140	5	0

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の編成の考え方及び特色

＜生命科学部 バイオサイエンス学科＞

1. 基本的な考え方

本学科は農学系総合大学に設置されている学科であり、その教育課程の特色は、生物と化学を基盤として、個体内、さらには、細胞内の生命現象を分子機能の観点から理解する生命科学を修得させて、農学、さらには、産業に応用できる専門家を養成することである。さらに、人類の食糧、健康、環境問題に貢献する意識を植え付け、その上で、実践的な応用力を育てる科目を配している。

2. 教育課程の編成

- 1) 学部共通科目は低学年次に配当する。生命倫理、科学と哲学等のほか、化学、物理学等を配し、教養と生命科学部としての基礎科目を修得させる。
- 2) 学科の専門基礎科目は低学年次に配当する。専門科目として、学科の基盤となる化学と生物の基礎を固めるための無機化学、有機化学、生化学等と共に、学科の専門性を特化させるための、分子生物学（一）、細胞生物学、生物統計学、微生物学、生物物理化学、生物有機化学等を配当する。さらに、これらの基礎科目の修得と並行して、有機化学実験、無機化学実験、生化学実験、微生物学実験、基礎生物学実験（一）の学生実験を配当して、座学に終始せずに、実践力を身につけさせるように配慮した。また、生命現象の理解を産業への応用を意識させることを考慮して、食品分野向けに食品化学、食品製造学、食品加工実習等、また、学際領域科目としてバイオプロセス工学概論、生物工学概論等を配当する。
- 3) 学科の専門コア科目は高学年次に配当する。専門コア科目として、動物分野には、動物の高次生命現象のメカニズムを理解させて、応用力を養成するために、動物細胞工学、栄養生化学、動物発生学、実験動物学、免疫学等、植物分野には、植物の高次生命現象のメカニズムを理解させて、応用力を養成するために、植物細胞工学、植物分子育種学、分子生物学（二）、生物資源環境科学等、細胞分子機能分野には、分子機能の観点から細胞内の生命現象のメカニズムを理解し、応用力を養成するために、応用微生物学、生体高分子化学、ゲノム生物学、生物制御学等を配当し、それぞれの分野に特化した最先端の知識を身につけさせる科目を配当する。また、バイオサイエンス基礎及び応用実験を配当し、学生実験で学んだ知識と技術を専門性の高い卒業論文研究に導くためのステップとして配当した。さらに、原著英語論文から最先端の研究情報を得る習慣を植え付けるために、科学英語論文講読を配当する。

＜生命科学部 分子生命化学科＞

1. 基本的な考え方

教育課程は設置趣旨を具現化する手段であり、設置趣旨である農学・生命科学領域で応用展開可能な基礎力を有する人材育成の具体的な方法論である。基礎を涵養するためには、科目全体が歴史的経緯をふまえつつ体系的な構成である事が必要であり、本学科教育課程編成の特色となっている。

2. 教育課程の編成

1) 専門基礎科目

この科目群においては、以後の科目の基礎となる知識・思考法・技術を教授する。基礎重視の本学科としては、科目全てを必修科目としており、講義 13 科目、実験 5 科目が 1、2 年時の配当である。本学科は化学を基盤とするが、科学史上化学を基礎付けた分野、数学、物理学も同時に開講し基礎を盤石な物にする。科学史においては数学が常に先行し、続いて物理学、次に化学という順序の展開が起こっており、後発の分野は通常先行した分野の表現手法、成果を内包する形式をとっている。数学、物理学等直接には農学・生命科学領域には関係が無いと思われる分野も基礎の土台を構築する上で重要な科目となる。このため、必要最低限と考えられる数学 2 科目、物理学 2 科目を配当した。化学系科目としては物理化学 2 科目、有機化学 2 科目、無機化学 1 科目、高分子化学 1 科目を配当し、以後の講義科目の核とした。これらの化学系科目は中等教育では教授されなかった新しい知識・思考法を含んでいる。

一方、入学生は中等教育で授けられた多くの知識を有している。その中には重要な概念であるにも関わらず様々な制約のため無批判に受容している事項もあり、モル数の決定、原子の実在などが良い例である。この種の知識に対し大学における厳密科学としての化学の見地より理に適った解釈が与えられるべきである。この目的で大学化学入門科目として 2 科目を設定した。また実験・実務において必須の統計学も配当した。実験科目は有機化学、無機化学、高分子化学の基本的実験操作の習得を目的としている。

2) 専門コア科目

この科目群においては専門基礎科目を受け、より農学・生命科学領域に踏み込んだ知識・思考法・技術を教授する。必修科目は、21 科目中 13 科目を配当した。

必修科目の内訳は、1 年次の 2 科目は化学史と農業の関係、農業現場の体験など大局的観点からの農学・生命科学領域への動機付けを目的とする科目である。2 年次には 5 科目配当したが高分子化学 2 科目、有機化学 1 科目、無機化学 1 科目、分析化学 1 科目であるが先行する基礎科目群の内容習得を前提としている。高分子化学は後発分野のため前提となる基礎知識が多くなる事を考慮した配当である。3 年次配当は高分子化学 1 科目、実験科目、化学系農学領域における伝統的な 3 科目、卒業研究先行実験 1 科目の計 6 科目である。いずれの科目も、これら以前に開講される科目の統合化された知識を前提としている。即ち専門コア必修科目は新規知識と共に専門基礎では離散的であった知識が多少なりとも総合化・統合化した方法で教授される。

残り 8 科目は、専門領域に特化した内容を含むため選択科目に選定した。3、4 年次
に開講され、特に卒業研究に直接関係した科目であるので専門研究入門としての役割も
担っている。

3) 総合化科目

卒業論文のための卒業研究に関わる 6 科目は全て必修科目である。1、2 年次で教授
された基礎知識は 3 年次に総合化された知識として農学・生命科学領域のコンテキスト
の中で新たな意味をもち所謂使用可能な状態になる。しかし、応用展開力の涵養は、1
-3 年次の段階では困難であるため、4 年次卒業研究で初めて可能になる。特定の課題に
1 年間を掛けて取り組み、学生自ら行動、思考を繰り返し教授された基礎知識を身体
のように血肉の通った存在にして始めて応用展開が可能になり、農学・生命科学領域化学
研究の入り口にたどり着いたといえるだろう。週 1 回の英語文献講読及び研究進捗状況
報告は世界の化学系学科・研究室の標準スタイルを採用し、教育課程に組み入れた。

4) 学際領域科目

この科目群は、農学・生命科学領域と他分野、生物学、工学、安全性等との境界にあ
る科目であり選択科目である。重要度が低い訳では無く、実務では重要視されている、
新しい方向性を示している等の特徴がある。意識の高い学生には意義深い科目となる事
が予想される。

<生命科学部 分子微生物学科>

1. 基本的な考え方

微生物の機能を統合的に理解し、この機能に基づく斬新な応用利用法を探索し、食料
問題、環境維持、健康問題などに貢献する人材養成を教育上の目的とする。そのために、
従来の微生物学分野の枠を超えて、微生物が関連する研究分野を広く探索し、最もシン
플な生命体である微生物の利点を活かして新しい機能的微生物をデザイン、開発につ
なげる。さらに微生物の有するポテンシャルを最大限に引き出す方法と技術の開発や、
生命現象を産み出す基盤となる分子群の構造と機能との関連性を理解し、さらに、バイ
オインフォマティクスを活用し、本学科における教育研究を進展させる理論的な裏付け
を強化する教育課程の編成を特色とする。

2. 教育課程の編成

1) 専門科目

従来の微生物学教育の基盤であった微生物学、生物化学、分子生物学に加えて、応用
対象となる応用微生物学、バイオプロセス工学、生物環境科学、ゲノムサイエンスを含
むインフォマティクスなどを通じて、生命現象のメカニズムを広く理解する。また、微
生物機能を応用する原理を考案する基礎として、無機化学、有機化学、分析化学、生化学
を通じて化学的な観点からも議論できる人材を養成する。さらに、座学だけでなく、
実験科目の充実を目的として、基礎化学実験、分析化学実験、微生物学実験、生物化学実
験、分子遺伝学実験を必修科目とし、生物資源工学実験、複合微生物学実験、総物共

生微生物学実験、植物共生微生物学実験を選択必修科目として配当した。さらに現在、微生物と他生物との関係性が重要であることが明らかとなってきたため、動物生理学、植物生理学、免疫・生体防御学、植物病理学も配当した。

2) 教養科目

以上の専門分野科目に加えて広い教養をつけるために、低学年に英語(一)～英語(四)を必修科目として、さらに英会話、英語リーディング、TOEIC 英語、ビジネス英語を選択科目として配当した。また、グローバル化に伴いドイツ語に加え、世界利用人口の高い中国語、スペイン語を選択科目として配当した。

この他、生命倫理、企業論、科学と哲学、科学メディア論、日本国憲法、知的財産概論、経済入門、アイソトープ利用論などより幅広い教養が学べる体制とした。

＜地域環境科学部 地域創成科学科＞

1. 基本的な考え方

本学科では、「自然環境、生活環境および社会環境の関わりについての広い知識と豊かな感性」、「観察力、論理的思考能力、高い倫理観」を有するとともに、「フィールドにおける多様な課題の解決に向けて積極的に行動」し、「生物文化多様性や土地・社会資本の保全、地域振興等の観点から持続可能な地域の創成に貢献できる」地域づくりを担う人材の育成を目標としている。この目標を達成するため、学年が上がるにつれて知識・技術の幅が広がっていくよう、実習などの実践性の高い教育を行うようにするのが、教育課程編成の基本的な考え方である。

2. 教育課程の編成

1) 総合教育科目

「多面的に物事を考える能力とその素養」、「情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力」などの基礎的な能力を習得するとともに、「広い視点から多面的に物事を考える能力とその素養」、「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果および倫理観」、「自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力」、「論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力」などの基礎的能力の他に、地域環境の調査・分析、環境アセスメントなど環境構成要素に関する専門知識や生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、それらを連携する事業や政策といった様々な企画立案能力などの専門的能力の習得を通じて、「地域づくり」を進める上で重要となる「自主的・継続的に学習し、与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」を涵養する。

2) 外国語科目

グローバル化時代の国際社会に対応できる論理的な記述力、口頭発表力や国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を習得するため、全学共通の基礎英語科目の他、実用英語科目および初修外国語科目を設けて、英語の読解能力、会話能力さらには科学やビジネスで活用できる、より高度な能力を身につけることができるようにしている。

3) 専門教育科目

(1) 学部共通科目

学部共通基礎科目、学部共通専門科目から成る学部共通科目は、自然関係科目、社会関係科目、人間関係科目の3つのカテゴリーに分類され、自然関係科目では自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力、人間関係科目では、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果および倫理観および論理的な記述力や論理的思考能力を習得するとともに、社会関係科目では「持続可能な地域づくり」を考えていく上で重要となる人間と自然、人間と経済、人間と社会の関係性を学び、グローバル（地球的規模）からローカル（地域的規模）まで、様々な視点で多面的に物事を考える能力をより深化させ、強固なものにする。

(2) 学科専門基礎科目

1、2 年次に配当した「里山生態学概論」や「地域環境論」、「施設材料学」、「農域防災論」、「農村・都市交流論」等の必修科目の履修を通じて、地域環境科学を構成する学問体系や取り組むべき課題などを理解するとともに、地域における人間と自然、人間と社会の関係性や本学科の各分野の教育研究システムの理解を促し自然科学から社会科学に至る幅広い知識に基づいた論理的思考能力によって、自然環境、生活環境および社会環境の相互関係を理解する。

(3) 専門コア科目

科目群の多くは選択科目であるが、各研究室で卒業論文に取り組む際に必要となる専門性の向上だけでなく、卒業後のキャリア計画（進学、公務員、企業など）を考える上でも重要な科目である。具体的には、以下に示す能力を何れか一つ習得することを最低限の目標とし、履修科目を決定する。

- ・ 地域資源としての自然環境の保全・再生に関わる専門的能力
- ・ 地球環境の保全と持続可能な生産基盤や生存環境の創出に必要な専門的能力
- ・ 自然災害や土地・社会資本の保全といった課題を解決するための専門的能力
- ・ 自然・文化資源の価値を再発見し、それを基盤とするマネジメント能力

(4) 学際領域科目

本学科で開講する様々な学問領域に共通し、生物文化多様性や土地・社会資本の保全の視点から「地域づくり」を考える上で重要な科目である。「地理情報システム論」では、ITC を活用した情報管理手法を学び、「環境アセスメント論」において「地理情報システム論」で学んだ知識の運用法を習得する。

(5) 総合化科目

フィールドにおける実習と学内における実験実習および「卒業論文」より成る。主に1、2 年次に実施するフィールド実習では、本学と連携協定書を交わした自治体の協力を得て、フィールドにおける多様な課題を抽出するための基礎知識と様々な観察・調査手法、合意形成法等のスキルを身につけるとともに、フィールド調査対象地域で学生自

身が課題を抽出し、それを解決するための手法を模索する課題発見解決型の実習を行う。学内における実験実習は主に 3、4 年次に実施し、地域における課題とその解決方法を学術的に考究し、「卒業論文」としてとりまとめるための研究手法を習得する。

＜国際食料情報学部 国際食農科学科＞

1. 基本的な考え方

本学科では、その特色である、「1）食と農にかかわるあらゆる科学、すなわち生産から消費さらに調理を含め栄養学的知見まで食に関連する一連のプロセスの包括的な学習」、「2）食や農に関わる歴史や文化的社会的背景、政策や制度に関する幅広い知識の習得」、「3）今後ますます重要になるフィールドワーク、実習など実践性の高い教育を実現」することが、教育課程編成の基本的な考え方である。

2. 教育課程の編成

1) 総合教育科目

全学教育科目において、大学生活における学習の開始を円滑にする意義を持つと同時に、現代社会における必要なリテラシーである情報に関わる基礎的な知識と能力を身につけること、また広く社会に目を向ける学習機会により、自らのキャリアデザインの一步とする機能を果たす。

2) 外国語科目

国際社会において対応できる論理力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成することを目的に、全学共通の基礎英語科目の他、実用英語科目を設けて、英語の読解能力、会話能力さらには科学やビジネスで活用できるより高度な能力を身につけることができるようにしている。特筆すべきは、初修外国語科目の種類の多さである。本学部では、国際化を世界の画一化ではなく、地域の固有性、多様性の重視という観点からとらえている。そのため、英語にとどまらず、世界各地の言語を習得する機会を設けることにより、本学科の設置の趣旨に適合した外国語教育を行うことができるようにしている。

3) 専門教育科目

(1) 学部共通科目

学部共通基礎科目は、大学の旧来の教養科目と同様、幅広い知識と教養を身につけることを目的としているが、特に本学科の場合、自然科学と人文社会科学の両方を学ぶことが学科の趣旨であることから、基礎的な学問知識を得ると共に、学科内の専門科目の隣接分野に関しても学習の幅を拡げる機会を設けている。

学部共通専門科目については、学部内で共通に必要な学問の基礎に関する 5 つの科目を配当すると共に、創生型科目として「地域再生・活性化」を配当し、理論だけではなく連携協定を結ぶ地域における実習形式で学習をすすめることにより、実践的な能力の涵養を行う。

(2) 学科専門基礎科目

学科専門科目のうち、専門基礎科目は主に1年次配当の必修科目であり、本学科で学ぶ上での専門的な基礎を固めることを目標としている。「国際食農科学総論」では学科専任教員によるオムニバス講義で、植物の生産技術、食品の加工・調理、食農の文化・政策、食農の教育の視点から、国際食農科学の基礎的知識を習得する。また、「植物・生理学」「栄養食品科学」の講義科目では実習等で必要になる基礎的な知識を習得し、「食農基礎実験」で化学実験技術の基礎を学ぶ。さらに「国際食農教育・学習論」で世界各地の食と農の多様な展開を学びつつ、食と農が教育の基本要素となりうることへの考察を深める。

(3) 専門コア科目

専門コア科目は、本学科の特色である「1）食と農にかかわるあらゆる科学、すなわち生産から消費さらに調理を含め栄養学的知見まで食に関連する一連のプロセスの包括的な学習」、「2）食や農に関わる歴史や文化的社会的背景、政策や制度に関する幅広い知識の習得」ができるように、多様性をもたせた構成となっている。まず、1）の目的に関しては、「食農野菜学」「食農作物学」といった生産に関わる科目、「栄養食品科学」「食品加工学」などの食品の加工や栄養に関わる科目、「国際食農資源文化論」「消費経済学」などの食農資源の活用や消費に関わる科目等を、主に2年次の必修科目として配当している。2）の目的に関しては、「食農政策法制論」「農村社会学」「地域活性化論」「比較農業史」「農業経営学」を3年次の必修科目としている。これらを通じて、社会や文化に関わる国際比較の視座や現状分析の方法を学ぶことができる。

(4) 学際領域科目

学際領域科目としては、「食農とメディア」を4年次の選択科目とした。3年次までに習得した理論と技術を踏まえ、様々なメディアで流れている食農に関する情報を科学的に考察する方法を身につけることとしている。

(5) 総合科科目

総合化科目については、本学科の特色である、「3）今後ますます重要になるフィールドワーク、実習など実践性の高い教育の実現」のために構想されている。1年次では「食農基礎実習」、2年次では「食農専門実習」で、農場における農産物の生産に直接従事する中で、講義で学んだ理論や知識を実践的に学んでいく。「食農基礎演習」「食農専門演習」において、社会科学を基礎とした課題発見、資料の探索、分析、発表、議論などの能力を習得する。また、「食品分析学実験」、「食品加工品質評価学実習」、「食品安全評価学実験」などにより、食品を扱う基礎的な技能と知識を実践的に身につけていく。

さらに、「食農ファームステイ」で農家実習を行い農産物生産から経営や流通の実態に触れる場を設け、「食農フィールドスタディ」で地域に特色のある食農の営みを視察・研修することで視野の広さを養う。これらの実践性の高い教育課程を通じて、アクティブで自ら問題解決を行おうとする人材を養成する。

3年次からは、学生が自ら選択した分野・研究室での学習を中心としながら、卒業論文制作に向けた学習に適した内容の科目を修得できるようにしている。選択した分野で

の学習は、国際食農科学演習（一）～国際食農科学演習（四）として各研究室を中心に実施し、上述のように数多く配当する選択科目により、専門的な知識や技術の深化を行う。

(イ) 教育課程における既設学部への影響

本学は、平成 29 年度の新学部新学科の設置に合わせ、新学部新学科の設置が予定される世田谷キャンパスに所在する既設学部学科においても、教育課程の見直しを行い、一部改正を計画している。

改正にあたっては、「社会の要請に的確に対応した特色ある質の高い教育研究への改革を継続し、教育研究体制の質的再編を推進するとともに、実験・実習や研究室における実学教育によって、幅の広い教養、専門知識や人間力を身につけ、未来の問題を解決できる有為な人材を社会に輩出すること」を目的とする全学共通の「平成 29 年度からの教育課程の編成方針」を決定し、それに基づく改正をそれぞれの学部学科が行うことで、各学科の特徴、役割を差別化、鮮明化させている。

既設学部学科のカリキュラム改正の主な特徴は、以下のとおりである。

- (1) カリキュラム表の枠組みを一部修正し、総合教育科目、外国語科目、専門教育科目に区分すると同時に、履修モデルやナンバリング、カリキュラムツリーを提示し、学生に分かり易いカリキュラムを提供する
- (2) 「全学共通科目」、「学部共通科目」、「学科専門科目」の 3 つの科目区分を全学共通とし、大学又は学部の共通性と学科の独自性の両方の確保に配慮する
- (3) (1)(2) の科目区分にそった卒業要件(表)を示し、適切な科目履修、単位修得の方向性を学生に提示する
- (4) 卒業要件に占める学科専門教育の比重を高め、専門性の修得を目指したカリキュラムとする
- (5) CAP 制の見直しを行い、学生の学修時間の確保に配慮する
- (6) 3、4 年次の学生全員が研究室又はゼミ所属するための科目等を配当し、直接指導できる教育環境を整備する

こうした既設学部学科のカリキュラム改正は、新学部新学科の設置に同期させながら行う大学全体の教育改善であり、教育の質の保証にむけた活動に他ならない。したがって、既設学部学科においても、これまでと同等以上の教育環境は保たれることになる。

なお、世田谷キャンパス以外の農学部(厚木キャンパス)及び生物産業学部(オホーツクキャンパス)においても、平成 30 年度にカリキュラム改正を実施する予定である。

(ウ) 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

<生命科学部 バイオサイエンス学科>

1. 教育方法

- (1) 1 年次には、全学及び学部共通の教養科目を習得し、学科に配当した基礎科目（細胞生物学、生化学、微生物学、無機化学、有機化学、生物有機化学、生物物理化学、生物統計学）により、基礎力を身につける。
- (2) 2 年次には、基礎科目（分子生物学（一）及び（二）、食品化学及び実験実習）に加え、必修科目及び選択科目の専門科目（植物生理学、動物生理学、生物資源環境科学、動物細胞工学、生体高分子化学、食品製造学、植物細胞工学）等を配当し、動物、植物、細胞分子機能に関する専門知識と基礎的な技術を修得させる。
- (3) 3 年次には、更に必要とされる専門科目（栄養生化学、食品衛生学、応用微生物学、ゲノム生物学、植物分子育種学、分子遺伝学、動物発生学、生物制御学、免疫学、実験動物学、アイソトープ利用論、生命情報科学）と学際領域の選択科目（機器分析学概論、バイオプロセス工学概論、生物工学概論、知的財産概論）等を配当し、専門的な知識だけでなく学問分野の枠を越えた知識を習得する。また、各研究室への配属後、各研究室で行う研究に必要な英語による専門知識や基礎及び専門技術を習得するために、必修科目（バイオサイエンス基礎実験、バイオサイエンス応用実験、科学英語論文講読）を配当し、研究室活動を効率的にスタートさせる。
- (4) 4 年次では、卒業論文研究のテーマを決定し、その完成に向けた研究室活動を充実させる。卒業論文を完成させるために必要な卒業論文作成方法や発表方法に関する科目（科学論文作成法、生命科学プレゼンテーション法）を習得させる。また、生命科学分野における最近の研究動向を教授する高度な専門科目（先端生命科学概論、生命科学技術論）を配当し、卒業論文作成に取り組む姿勢の向上と、大学院進学への動機づけを行う。

2. 履修指導

年次毎に担任教員を配置し、学生の履修指導にあたる。また、研究室への配属後には、各研究室の教員が担当する。カリキュラム及び履修モデルに従い指導を行う。教員同士の連絡を密にし、指導内容の向上や問題の早期解決に努める。

3. 履修単位数の上限

履修単位が過多とならないように、履修科目の登録上限を年間 44 単位とする。また、卒業には 124 単位以上の取得が必要である。その内訳は、必修科目 94 単位、選択必修科目 12 単位（人間関係科目及び社会関係科目の 3 科目の中から 2 単位、専門コア科目のうち「植物細胞工学」「ゲノム生物学」「植物分子育種学」「分子遺伝学」「動物発生学」「生物制御学」の中から 8 単位、学際領域科目のうち「機器分析学概論」「バイオプロセス工学概論」「進化論」「生物工学概論」の中から 2 単位）、選択科目 18 単位以上（た

だし、学科専門科目から2単位以上)とする。

4. 卒業要件

- (1) 4年以上在籍し、学科の指定した必修科目、選択必修科目を含む124単位以上を取得する事。
- (2) 進級要件
 - 1年より2年：卒業要件に関わる単位を20単位以上取得
 - 2年より3年：卒業要件に関わる単位を50単位以上取得
 - 3年より4年：卒業要件に関わる単位を90単位以上取得

5. 履修モデル

本学科の学問が活用される分野は、農学のみならず工学・理学・薬学・医学など多岐にわたる。したがって、本学科の卒業生は、食品、化学工業、製薬、医療関連企業の研究開発部門や製造部門、品質管理・分析部門等、多方面の産業界からの求人対象となることが想定される。さらに、教員や公務員希望者も一定数存在すると推測される。また、大学院進学者も多くなることが予想される。そこで資料1のように以下の計5つの履修モデルを設定した。本学科の必修科目を履修することにより、バイオサイエンスに関する基礎学力を身につけることが可能であることから、各履修モデルは、学部共通科目、外国語科目、選択科目から自由に選択することで区別できる。また、大学院においては細胞・動物・植物の各分野における研究者や教育者としての養成を目指すため、3つの履修モデルを設定している。

- 1, 食品製造業・化学工業分野
- 2, 製薬・医療分野
- 3, 中学校や高校の教員
- 4, 公務員
- 5, 大学院進学、等

このように、本学科が提供するカリキュラムを修めた卒業生は、バイオサイエンスを駆使する専門家や指導者、それらの知識や技能を実務に活かす人材として社会に貢献することが期待される。

<生命科学部 分子生命化学科>

1. 教育方法

本学科としての教育目標は応用展開可能な基礎力の涵養であり、次のような内容を配当した。

－ 1 年次－

目標と方針：12 年間に及ぶ中等教育から大学教育のスタイルに馴染ませる期間として捉え無理の少ない移行、円滑な大学教育の開始を目指す。

前期 高等学校教育から大学教育への円滑な移行

専門基礎科目 3 科目（必修）／専門コア科目 2 科目（必修）

入学後日の浅い期間であるので本格的な大学講義は消化不良となる可能性が大きい。大学化学の入門科目を 2 科目（専門基礎・必修）配当し、無理の少ない移行を計画している。また農学・生命科学領域の化学を大局的な視点から捉え、以後の学習の動機付けとする 2 科目（専門コア・必修）を配当し、上記目標の達成を目指す。また、実習科目も必修科目を 1 科目配当した。

後期 大学化学入門 基礎力となる科学知識の教授

専門基礎科目 6 科目（必修）

この学期は専門に関しては専門基礎科目 6 科目（必修）とし、大学化学の入門となる科目を教授する。基礎化学系 3 科目に加え理系一般に共通の基礎系の数学、物理学の伝統分野それぞれ 1 科目を配当、更に基礎系化学実験を加え視野を広げ且つ土台を固め 2 年次以降の配当科目の基盤作りを行う。

－ 2 年次－

目標と方針：1 年次の講義・実験科目で取得した知識・技術を前提として大学化学の教授を開始する。「再現性と定量性、厳密な論理性、適用と限界の明瞭性等の様相をもつ科学としての化学」の学びの開始とする。

前期 大学化学の開始 基礎力となる科学知識の教授

専門基礎科目 7 科目（必修）／専門コア科目 1 科目（必修）

コンセプトは 1 年次後期と同様であるが、前期よりは、よりミクロな視点に立った化学寄りの内容を教授するが前期の講義内容と密接な関係をもつので実質的には前期の復習も合わせて行う形式となる。化学は実践的な科学分野であるので実験は必須であり、必修科目を 2 科目（専門基礎）配当した。座学の専門基礎科目はこの学期で終了する。

後期 農学・生命科学領域の化学の学び開始 基礎力となる化学知識の教授

専門基礎科目 2 科目（必修）／専門コア科目 4 科目（必修）／
学際領域科目 1 科目（選択）

2 科目配当した専門基礎は実験科目である。4 科目配当した専門コア科目はいずれも専門基礎科目の習得を前提条件とした科目であり、新知識も教授されるがある特定の科目の発展系ではなく知識ベースで統合化・組織化された科目でもある。物理化学の用語・考え方と有機化学が融合した形式で講義が行われる等、より予習・復習に時間が割

かれると考えられるため、他学期より講義の時間数は少なく設定した。

また学際領域として、危険物取扱に関する科目を設定したが、化学物質が法的指導のある物質であり化学に従事する者にとっては研究、実務に関わらず法を遵守し安全に行うために必要と考え、専門コア科目を開始する時期に合わせて配当した。

－ 3 年次－

目標と方針：1、2 年次の思考方式・知識を前提とし、農学・生命科学領域の課題を基に、これらの統合化を図り次段階の応用展開力養成につなげる。同時に、4 年次卒業論文研究への移行を円滑に行うため、部分的に研究室活動を開始する。

前期 基礎力となる化学知識及び技術の教授

専門コア科目 2 科目（必修）／2 科目（選択必修）／2 科目（選択）

総合化科目 1 科目（必修）／学際領域科目 1 科目（選択）、

専門コア科目 6 科目、学際領域科目 1 科目に加え、4 年次に主となる総合化科目を 1 科目配当し、全体的に研究現場に近づいた構成とした。専門コア科目は、必修科目・選択科目を問わず研究現場で必要となる論理・技術を入学から前期までの期間で養った知識を基に展開する内容となっている。通常早期に開講される生化学も基礎となる熱力学（主に物理化学（一））、化学反応論（主に有機化学（二））、有機化合物の物性（主に生体有機化学、高分子化学概説）等を学び、充分この分野の前提となる基盤を取得した後の開講とするためこの時期とした。総合化科目は次学期より開始される研究室教育のプレリユードであり研究室単位で行われる研究・教育を円滑に遂行する目的で配当した。

後期 基礎力となる化学知識及び技術の教授＋農学・生命科学領域の化学入門

専門コア科目 4 科目（必修）／2 科目（選択必修）／1 科目（選択）

学際領域科目 1 科目（選択）

座学においては、前期では研究室における論理・技術について入門を果たし、今学期は農学・生命科学領域の研究対象により接近した内容を持つ科目を配当した。専門コア科目中唯一の応用分子生命化学実験は、研究室単位で行われる卒業論文研究の前段階を司る科目であり、実際に頭・手足を動かす研究現場での活動開始を促す科目でもある。学際領域科目においても、化学全領域で高い有意義性をもつ化学工学を配当し、研究現場へのステップアップを助ける構成とした。

－ 4 年次－

目標と方針：1-3 年次に獲得した知識・思考力を応用展開可能な基礎力に育て上げる事が目標である。研究室を単位とし、教員全員参加の少人数教育において自ら思考、計画し手足を動かし研究を実施、状況あるいは成果の本質を厳密・簡潔に表現・伝達可能なレベルになるまで教育する。本学年を経て始めて応用展開力が育成される。

前期 少人数教育を基調とした応用展開力の基礎知識・技術への付与

総合化科目 3 科目（必修）／専門コア科目 1 科目（選択）

研究室を単位とした教育・研究を行う。1-3 年次に修得した基礎力を研究現場である研究室において、自ら考えた様式に従い手足を使い実施する事により、応用展開力を陶冶する。科学も人間の所作の産物でありながら絶対的な客観性・再現性を有する分野であるため、学ぶと同時に発表する、他の人々の査定を受ける事が肝要である。この経験を経て始めて基礎力に応用展開力が付与・育成される。総合化科目はこの故に設定されて化学系研究室の世界標準に従っている。分子生命化学文献講読においては原著英語論文を批判的に正確に読み解き、自らの知識・思考範囲を広げ、分子生命化学プレゼンテーション法で自らの研究成果の発表により、議論の論理性・妥当性を先鋭化する。いずれも教員はもとより、研究室員全員参加が原則である。卒業論文はこれらが統合化した形態も持ち、教員との 1:1 指導が基本である。今学期この中で特に力点を置くのは英語論文講読であり、文法に基づいた正確な理解を目指す。また、講義科目として更なる基礎力強化を促す目的で化学無機・有機分野の統合化した高度な内容をもつ選択科目を配当した。

後期 少人数教育を基調とした応用展開力の基礎知識・技術への付与

前期に引き続き研究室を単位とした教育・研究を行う。当該学期は大学学部教育の最終学期にあたるので、特に研究成果の発表・発信手法に重点を置く。当該学期を終了後、基礎力とその応用展開が可能となり科学研究の入り口に立つ状況が獲得される。

2. 履修指導

年次毎に担当教員 3、4 名を配置し、これにあたる。入学から卒業まで同じ教員が 4 年間を担当する。また各学年担当教員同士で定期連絡会を設け、問題の早期解決を円滑に遂行する。職業指導としての履修は、履修モデルに従い指導を行う。

3. 履修単位数の上限

学習効果を高めるため年間履修登録単位数の上限を 44 単位とする。また卒業に必要な単位数は 124 単位である。

4. 卒業要件

- (1) 4 年以上在籍し、学科の指定した必修科目、選択必修科目を含む 124 単位以上を取得する事。
- (2) 進級要件
 - 1 年より 2 年：卒業要件に関わる単位を 20 単位以上取得
 - 2 年より 3 年：卒業要件に関わる単位を 50 単位以上取得
 - 3 年より 4 年：卒業要件に関わる単位を 90 単位以上取得

5. 履修モデル

本学科では資料2に示す二種類の履修モデルを設定した。第一に、農学及び生命科学領域の問題に対して応用展開を可能とする基礎力を以て解決することのできる人材を養成する。本学科カリキュラムは産業界の要請を一定程度以上考慮して設計されていることから、上記二つの領域はもちろん、これらの学問体系を習得した人材が化学系、生物関連の科学技術系の産業界において活躍する資質を持つことは必然と言える。この履修モデルはさらなる真理の探究のために大学院への進学を志す者にも合致する。第二に、卒業後のさらなる進路として、近代化された農業への従事のほか中学・高等学校の教員や公務員、食品関連産業などが考えられる。これらの職業で求められる「前に踏み出す力」や「考え抜く力」、「チームで働く力」等の社会人基礎力がより強く養成するための履修モデルを設定した。

<生命科学部 分子微生物学科>

1. 教育方法

本学科の授業は、講義、実験・実習、演習で構成される。本学科の講義科目の特徴は、微生物学の冠が付いた2科目（微生物学（一）、微生物学（二））などの講義を通じて、微生物学が持つ深い歴史と数多くの著名な科学者による研究成果を紹介することで、微生物学に対する愛情と情熱を養うことを目指す。次に近未来の微生物学に必要な最先端の知識や技術を万遍なく理解することを目的として、必修科目の生物化学や分子生物学（一）、分子生物学（二）、応用微生物学などを通じて最新の研究成果や先端的研究技術について講義する。これらの教授法としては、国内外の優良な教材を幅広く導入し、かつパワーポイントや各教員が独自に作成したプリント教材を活用することにより、限られた時間内で効率良く講義内容を伝えるように工夫する。また微生物学の応用が期待される農業分野、食品分野、環境分野におけるより専門的な知識の習得を目的として、バイオプロセス工学、食と科学、バイオインフォマティクス、植物病理学、動物生理学、極限環境生物学、機器分析学、アイソトープ利用論などを配当し、専門分野で必要とされるより高度な知識や実践的な技術に関する知識基盤の獲得を目指す。また4年次配当科目の先端分子微生物学概論や先端分子微生物技術概論を通じて、1-3年次に受講した講義内容を習得した後に理解が可能となる大学院レベルの講義内容に関しても選択科目として履修の場を配当した。

実験・実習科目としては研究で必要とされる化学、生物学、分子生物学に関する技術基盤の習得を目的として1、2年次にかけて必修科目の実習を5つ配当した。また3年次には研究室で必要とされる基礎技術や、高度で専門的な実験技術や解析技術の習得を目的として5つの専門コア実験科目を配当した。4年次には卒業論文研究に日々邁進するための十分な時間を確保するために、講義スケジュールにゆとりを持たせている。

演習科目は、1、2年次では各教員が従事する研究活動の紹介を行う講義形式を通じて、研究をすることの目的や意義の理解と、研究活動への参加意識の向上及び研究意欲の高揚を目指す。また3、4年次には学生自身が研究者として発達するための基礎とし

て、各種研究発表会やレポート作成を通じて、自発的な研究活動を行う上で必要とされる姿勢や基礎的な発表スキルの獲得を目指す。

カリキュラム表、履修モデルに示すとおり、本学科における科目配当年次の方針は以下のとおりである。

- a) 1 年次には、生命科学部における専門的な学問を理解する上で必要とされる基礎知識を、生物学、無機・有機化学、物理、地学、数学、などの基礎科目を通じて学ぶ。教材としては高等学校レベルの講義内容に関して復習が可能であり、かつ大学レベルの知識獲得が可能なものを選定し、基礎から応用に至るプロセスを同時に理解できるようにシラバスのプログラム設定を行った。1 年次後半には基礎化学や分析化学の習得を目的とする実験・実習科目を配当し、基礎的な実験技術の習得と、講義科目で学んだ学問的な知識を実践することで、その理解を深めることを目的とした。
- b) 豊かな教養を身につけるための学部共通基礎・専門科目、国際的なコミュニケーション能力を可能とする外国語科目、将来の進路や就職分野の設定に関してサポートするための総合教育科目、などをバランス良く各学年に配当した。また学科が開講する必修科目以外の学科専門科目としては、選択科目の極限環境生物学、知的財産論、科学メディア論、アイソトープ利用論、などの履修を通じて、微生物学の特徴であるユニークでかつ社会的な話題に関しても敏感に反応することが可能な素養の獲得と社会性の向上を目指している。
- c) 「微生物学」をベースとする産業は、主に農業、食料、健康、環境、医療など幅広い分野で発展している。1 年次に習得した基礎学力を基盤として、2 年次には上記の各産業分野に関連する基礎知識を総合的に学習するための導入科目として、専門基礎科目の生物環境科学、植物生理学、動物生理学などの必修科目を配当した。また 2 年後期には必修科目の専門基礎科目としてバイオインフォマティクス、分子細胞生物学などや、専門コア科目としてバイオプロセス工学、植物病理学などを配当し、専門基礎科目の復習と理解に基づく高度な専門知識の習得を目指す。一連の基礎科目を習得した 3 年次以降には、食や農に関する必修科目の専門コア科目に加え、環境分野や医療分野などの現場で必要とされる機器分析学、免疫・生体防御学、植物病理学、バイオインフォマティクス実習などを配当することで、より応用的でかつ専門的な知識の習得を目指す。
- d) 本学科のコアを形成する各分野の専門科目は、3 年次以降に重点的に配当した。各研究室教員が全員で担当する 5 つの講義・実験・実習科目を通じて、3 年次には研究の遂行に必要とされる共通の知識基盤の教授と、より専門的な技術指導を行う。また 3 年次後期には実験データ解析概論、4 年次には先端分子生物学概論と技術概論を配当し、専門分野で必要とされる正確な実験データの解釈法や解析法、さらには最新研究を理解するために必要な学力とスキルの修得を目指している。

2. 履修指導

履修指導には担任制を敷く。開講科目のうち、1、2年次の必修科目は、2研究分野の基礎を総合的に、かつ網羅的に学ぶことから、学年全員で1クラスの講義を開講する。3年次以降は、研究室が中心となって開講する5つの選択科目と関連実習科目を配当することで、少人数を対象とし、学習効率の向上を目指す。

3. 履修単位数の上限

学習効果を高めるため年間履修登録単位数の上限を44単位とし、卒業に必要な単位数は124単位である。

4. 卒業要件

- (1) 4年以上在籍し、学科の指定した必修科目、選択必修科目を含む124単位以上を取得する事。
- (2) 進級要件
 - 1年より2年：卒業要件に関わる単位を20単位以上取得
 - 2年より3年：卒業要件に関わる単位を50単位以上取得
 - 3年より4年：卒業要件に関わる単位を90単位以上取得

5. 履修モデル

現代の産業界において「微生物学」が活用される分野は、微生物が生み出す抗生物質やビタミン類などの発見をベースとする天然資源開発分野、発酵や醸造などの食品微生物分野、微生物が関与する有用性、病原性、感染性などを管理する衛生管理分野、などに主に大別される。本学科で開講する必修科目で得られる知識は上記の産業界全体を包括しており、あらゆる分野への卒業生の輩出が可能である。以上のことから、本学科の卒業生は食品産業、品質管理、製薬、環境検査などの研究開発分野から品質管理分野にいたるまで多方面の産業界からの求人対象となることが想定される。さらに、教員や公務員、大学院進学希望者も一定数希望者ができると予測する。そこで以下の計7つの履修モデル[資料3]を設定した。上記の通り本学科の必修科目を履修することにより、上記産業界において必要とされる基礎学力の獲得が可能であることから、各履修モデルのバリエーションは、学部共通や他学科聴講、外国語科目、選択科目など、本学が農学の総合大学として開講する幅広い講義科目を履修することにより強化が可能である。また多くの大学院進学希望者が想定されることから、大学院においては同分野における指導者としての育成を目指している。

- 1, 食品製造分野
- 2, 品質管理分野
- 3, 製薬分野
- 4, 環境検査分野

- 5, 教員
- 6, 公務員
- 7, 大学院

このように、本学科が提供するカリキュラムを修めた人物は、微生物学の進展と共に発展してきた様々な産業界において嘱望されることが予想され、近未来の微生物産業界をリードする人材となることが期待される。

＜地域環境科学部 地域創成科学科＞

1. 教育方法、履修指導方法

（1）ガイダンスの実施

新入生に対し、入学式直後から約2日間にわたってガイダンスを行い、冊子体の「学生生活ハンドブック」、「履修のてびき」、「講義要項（シラバス）」を用いて4年間の学生生活に必要な事項・情報について指導するとともに、カリキュラム編成の考え方、履修方法、学習計画・学習方法等を指導する。また、図書館の利用方法やパソコン利用及び健康管理を含めた学生生活全般についても説明を行う。このような学習指導は、セメスター開始直前に必ず実施する（在学生に対しても行っている）とともに、やむを得ず欠席した学生に対しては、学年担任を通じて配付物を渡すとともに、個別に学習指導を行う。

一方、保護者に対しても入学式直後の説明会、毎年6月、7月に開催する父兄懇談会を利用して、学生に指導した学生生活に必要な事項・情報、履修方法、学習計画・学習方法等の内容、学生の単位取得状況等の情報共有を図る。

（2）学年担任制

本学では、学年担任制度を導入しており、学科専任教員を概ね4等分して各学年のオリエンテーションの実施等の学生指導にあたっている。学年担任は、基本的に入学から卒業まで持ち上がりとなり、担当教員が学生一人ひとりにきめ細かく学習面及び生活面の指導・支援を行う。

（3）研究室員制度

研究室は、本学における教育研究組織の最小ユニットであり、伝統的に「研究室員制度」を運用している。その運用方法は学科によって異なっているが、多くの場合、学生は3年次生から室員として研究室に所属し、実験実習や卒業論文などの履修科目上の専門教育を受けるとともに、研修旅行やゼミへの参加、大学院生を含む上級生の研究補助、学園祭（収穫祭）での研究発表などの研究室の課外活動に参加する。また教員は、研究室員に対して、専門教育指導や課外活動のサポートのみならず、学生生活指導や就職支援を行う。

本学科では、この本学の伝統的な教育研究システムを踏襲し、各研究室において3年

次生以降の教育・学生指導を行うこととしている。また、低学年次生の希望者も積極的に受け入れる予定である。

（４）学習教育・到達目標の明確化、履修モデル

本学科が目指す「地域の担い手やリーダーになり得る人材」の養成をより効果的に実現するため、個々の授業科目の講義要項（シラバス）において到達目標を設定するとともに、各種資格との関連についても明示する。一方で、卒業後の具体的な進路をイメージさせるために履修モデル資料 4 を提示し、卒業単位の修得に必要な授業科目について理解を促すとともに、体系的・主体的に 4 年間の学習計画を立て、自主的、継続的に学習できる能力の涵養を促すよう配慮している。なお、履修モデルに示されている 124 単位分の科目群は、必要最低限の科目群であり、選択科目であっても必修科目と同様に必ず履修しなければならない。

（５）履修登録単位数の制限および進級要件

学習効果を高めるため年間履修登録単位数の上限を 44 単位としている。

また、本学では、後述するように卒業に必要な総単位数を 124 単位としているだけでなく、以下のように進級要件を定めている。

1 年より 2 年：卒業要件に関わる単位を 20 単位以上取得

2 年より 3 年：卒業要件に関わる単位を 50 単位以上取得

3 年より 4 年：卒業要件に関わる単位を 90 単位以上取得

（６）成績評価方法

本学では、セメスター終了時に定期試験を行い、表-ウ.1 に示すように成績評価は「秀 (S)」～「未評価 (F)」の 6 段階で行っている。各授業科目の成績評価のうち、秀～可 の成績評価を得た者は、その科目単位を修得した者とし、不可、未評価は不合格としている。また、成績評価結果を点数 (Grade Point) 化し、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。

GPA は、以下の式により算出され、学納金減免の判定や海外研修プログラム参加者の選定、交換留学の選考等に利用されている。GPA 制度の導入は、学生の学習目標の明確化・自己学習の推進に役立つものと考えられる。

$$\text{GPA} = \frac{\text{GPA 対象科目の GP} \times \text{その科目の単位数}}{\text{GPA 対象科目の単位数の合計}}$$

表-ウ.1 成績評価結果と点数（Grade Point）の関係

判定	成績	表示	成績評価基準	GP	成績評価内容
合格	秀	S	100～90 点	4.0	特に優れた成績（履修者の 5 %以内）
	優	A	89～80 点	3.0	優れた成績
	良	B	79～70 点	2.0	妥当と認められる成績
	可	C	69～60 点	1.0	合格と認められる成績
不合格	不可	D	59 点以下	0.0	合格と認められる成績に達していない
	未評価	F	—	0.0	評価に値しない

2. 卒業要件

卒業要件は、「(4)履修登録単位数の制限および進級要件」に記した進級要件を満足し、4 年次に在籍するとともに、履修モデルに従い 124 単位以上を取得することで満たされる。具体的には、最短 4 年間で総合教育科目の必修科目 7 単位、外国語科目の必修科目 8 単位、専門教育科目の必修科目 66 単位、選択必修科目 12 単位、選択科目 16 単位、その他履修モデル別示される選択・選択必修科目 15 単位以上の単位を取得することで、卒業要件は満たされる。

<国際食料情報学部 国際食農科学科>

1. 基本的な教育方法

本学科の授業は、講義、実習、実験、演習、また学外での実習など、多彩な方法で実施される。学生数は、実験や実習などの実施可能性を配慮し 1 学年 100 名とし、実習や演習では複数のグループに分かれて少人数指導をすることとする。

2. 科目区分ごとの必修・選択科目と履修モデル

前述したように、本学科の用意する教育課程は、学年ごとの必要性に応じて配当されている。また、科目区分後の必修単位数、選択科目単位数は以下の表に示すとおりである。

卒業要件は、毎年進級要件を満たし、4 年間在籍し、下表のすべての必修科目及び、学部共通基礎科目の各関係科目から 4 単位以上を取得し、全体として 124 単位以上の科目を取得することで満たされる。

科目区分			単位数		
			必修	選択	自由
総合教育科目	全学共通科目	導入科目	5		
		スポーツ関係科目		2	
		課題別科目		12	
		就職準備科目		3	
	学部共通科目	リメディアル教育科目			6
小計			5	17	6
外国語科目	全学共通科目	基盤英語科目	8		
	学部共通科目	実用英語科目		16	
		初修外国語科目		40	
小計			8	56	
専門教育科目	学部共通基礎科目	人間関係科目		8	
		社会関係科目		8	
		自然関係科目		10	
	学部共通専門科目	専門共通科目		10	
		創生型科目		2	
	学科専門科目	専門基礎科目	9	4	
		専門コア科目	28	35	
		学際領域科目		2	
		総合化科目	32	5	
	小計		69	84	
合計			82	157	6

なお、本学ではC A P制が採用されており、学期ごとの取得単位の上限は 22 単位、年間 44 単位と定められている。

本学科では、卒業生の進路を 3 つに大別していることは前述の通りである。

- (1) 日本の多様な食農文化を継承し、より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通など食農事業を展開する実践能力を有する人材
- (2) 地域社会が伝統的に育んできた食農文化を継承し、地域資源の活用をコーディネートし、多様な産業や活動を支援する能力を有する人材
- (3) 食農教育を通じた文化の継承とともに、新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信する能力を有する人材

これらに従い、履修モデルを 3 種類用意している[資料 5]。進路希望によりこれらの履修モデルを参照して、選択科目を履修することになるが、さらに 3 年次からの所属研究室と、その教員の指導により、専門性を高める科目の履修が期待される。

（エ）教員組織の編成の考え方及び特色

＜生命科学部 バイオサイエンス学科＞

本学科では、生物と化学を基盤として、個体内、さらには、細胞内の生命現象を分子機能の観点から理解する生命科学を修得させて、農学、さらには、産業に応用できる専門家を養成するための専任教員を配置する。

専任教員として、教授 11 名、准教授 3 名、助教 5 名の計 19 名とし、大学設置基準を上回っており、十分な教育・研究指導を行うことが出来る。

それら教員の専門性を考慮し、動物、植物、細胞分子機能の 3 分野に配置し、学生は 1 年次に全学及び学部共通の教養科目を学ぶとともに、教員は学科の教育内容に則した基礎科目の講義を行う。その基盤の上に、2 年次、3 年次と専門科目を積み上げる教育を行う。3 年次には、3 分野に配置した 6 研究室（各 3 名の教員を配置）に学生を配属し、「バイオサイエンス基礎実験（3 年次前期）」及び「バイオサイエンス応用実験（3 年次後期）」において各研究室の教員が卒業論文で必要な実験の基礎技術を指導し、4 年次の卒業論文研究へつなげる。また、各研究室に所属する 3、4 年次生に対しては、専門的な教育・研究のみならず、就職・大学院進学相談に応じ、学生の個性や希望に則した大学卒業後の適正な進路を見つけ出す指導を行う。

＜生命科学部 分子生命化学科＞

1. 科目への人員配置の基本的な考え方

教育課程編成では、目標として掲げた人材養成に必要な科目群を列記し説明を加えた。

これらの科目群を実際に講義し学生に伝えるのは教員であり、担当科目に対する相応関係が求められる。科目は専門基礎、専門コア、総合化、学際領域の区分の他に必修科目、選択科目と講義、あるいは実験・実習の区分があり適正な人員配置とした。以下にこの分類に従った人員配置と、根拠となる考えを記述する。専任教員は、全員で 14 名である。

2. 実験・実習科目

専門教育科目の実験・実習科目は、全て必修科目であり薬品・器具の使用を含む。安全対策が一義と考え職階を問わず 3 人 1 組で学生指導にあたる体制とした。多くの目で多角的な視点よりの指導する事により、実験・実習における安全を確保する。

3. 講義科目

講義による教育は基本的に人格（教員）による人格（学生）の陶冶である。教員の提示する知識体系を雛形としてこれに対する同意・疑問を通じて学生は自らの中に自分なりの体系を築く。単なる知識の伝達ではないため、科目の性質分類により担当する教員の職階が決まる。

(1) 専門基礎科目

この区分は全て必修科目である。化学系科目 8 科目中 7 科目を教授が担当、1 科目を准教授が担当する。この科目群は、学科教育課程の基盤となるので、配置される教員は豊富な研究歴を持ち多角的な視野よりの講義が可能な人材が望ましい。職階では教授がこれに相当するので上記の配置とした。

数学、物理学系 4 科目については専門家を非常勤講師として迎える。

(2) 専門コア科目

この科目群は基礎科目が融合しながらより専門性の高い話題を扱う科目群であり、必修科目、選択科目の区分がある。

必修科目は 11 科目配当し、教授担当が 7 科目、准教授担当が 4 科目である。

選択科目は 8 科目配当し、教授担当が 3 科目、准教授担当が 3 科目、助教担当が 1 科目、非常勤講師の担当を 1 科目とした。

以上のように基幹科目は原則として教授が担当する構成とした。

4. 総合化科目

全て必修科目であり、卒業研究を主体とした応用展開力の涵養を目的とした科目群である。

実験、プレゼンテーション等を含み、安全面、コミュニケーション力の育成等、知識以外の因子も重要となるため、実習・実験と同様 3 人 1 組の指導体制で少人数教育を行う。このスタイルは全ての化学分野世界標準であり本学科の特色でもある。

5. 研究分野と研究体制

上記科目を担当するに相応しい教員の研究分野であるが、農学・生命科学領域の化学であるため有機化学が中心となる。農学・生命科学領域の有機化学は主に 3 分野に別れ、分子の合成（5 名）、分子の単離・精製（6 名）、分子の動的・静的構造解析（4 名）が分野となるが教員の専門領域は講義科目をカバーしている。1 人の教員が複数の分野を跨いでいるので全教員数より多くなっている。また生物圏では生体内の有機分子と無機化合物の相互作用も重要であり講義するに相応しい教員（2 名）を揃えている。高分子化学は持続性が確保できる教員体制（3 名）となっている。

6. 教育組織の持続性

平成 29 年度において、本学科の専任教員の年齢構成は、60 代 4 名、50 代 3 名、40 代 4 名、30 代 3 名と均等な年齢構成となっている。また准教授、助教の講義に関しては、自身の専門を活かせる範囲によって一科目を全て任せ、講義を通じて自らを教授後継として教育する体制を採用している。以上により教員組織の持続性は担保されていると判断した。

＜生命科学部 分子微生物学科＞

本学科では微生物を中心とした生物の生命現象を農学的な視点に基づき解明し、かつ分子生物学的な観点から先端科学技術を幅広く取り入れた研究手法を教授し、その利用を通じて農学分野の発展に貢献することを目的としている。本学科の分野構成は、「1. 微生物そのものを有用な天然資源として捉え、その発見と機能解明を目的とする微生物機能分野」、「2. 微生物同士の相互作用、ならびに微生物と動植物との共生関係の解明と、その有効利用を目的とする微生物共生相互作用分野」の2分野からなる。それぞれの分野には優れた研究成果を有する著名な熟練教員と、最先端の研究現場で活躍する新進気鋭の若手教員がそれぞれ配置されている。微生物機能分野では、自然界からの新規微生物資源の探索法や、それら微生物が有する有用な天然資源の発見、さらには先端的なオミックス学に基づく最新技術を駆使した物質同定法や遺伝子資源の取得に至るまでの研究手法の教授が可能である。微生物共生相互作用分野では、タンパク質相互作用解析や酵素反応解析などの生物化学的な学問を基礎として、動植物との共生作用を分子生物学的に解析する基礎研究、さらにはその産業上の有効利用法を開発するための応用的な研究手法の教授が可能である。1、2年次においては、本学科を構成する2分野の領域を幅広く学ぶことを目的として、学科専門の基礎必修科目と5つの実験必修科目を全教員が分担して担当し、確固たる学力の獲得を目指す。3、4年次には5つの研究室のいずれかに所属し、各研究室の教員が全員で担当する専門コア科目と関連実験・実習、選択科目を履修することにより、高度な学力の習得と研究者に必要とされる知識・技術基盤の獲得を目指している。

＜地域環境科学部 地域創成科学科＞

1. 教員組織

本学科の人材育成目標である地域環境の調査・分析、環境アセスメントなど環境構成要素に関する専門知識や生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、それらを連携する事業や政策といった様々な企画立案能力など、地域環境科学に関連する幅広い知識と技術、マネジメント能力を持った地域の担い手やリーダーになり得る人材を養成するために、以下のように教員組織編成を行った。

本学科の教員は、教授9名、准教授2名、助教2名の総員13名からなる。内訳は、本学科の授業科目を指導できる学部内既存学科（森林総合科学科、生産環境工学科、造園科学科）から異動を予定する教員8名（教授6名、准教授1名、助教1名）、これに短期大学の教員5名（教授3名、准教授1名、助教1名）を加え、本学科で実現する新しい形での教育にふさわしい教員の配置を整えた。専任教員は全員博士号を有しており、学位の種類は表-ウ.2に示す通りである。

表-ウ.2 専任教員の学位の種類

農学系※	工学系	理学系
10 名	2 名	1 名

※：博士(学術)を含む

2. 教員の年齢構成

教員の年齢構成は次の通りである。なお、完成年度の平成 32 年 3 月までに定年を迎える者が 1 人含まれるが、「学校法人東京農業大学有期雇用職員就業規則」等に基づき、本学科完成年度末まで引き続き同一職位で勤務し、本学の教育研究に支障を来さないようにしている。表-ウ.3 に示すように後に続く年代層の教員もバランスよく配置されており、完成年度末以降に退職する教員の後任補充も専門分野や年齢構成に十分配慮して行う予定である。また、本学科の学問的バックグラウンドである林学、造園学、農業工学の研究領域には本学部卒業生を多く抱えているため、「人物を畑に還す」という本学の建学の精神の継続性、新規教員の採用による教員組織の維持、強化には問題はなく、教育・研究の継続性について懸念はない。

表-ウ.3 専任教員の職階・年齢構成（平成 29 年 4 月 1 日時点）

年 齢	30～40 歳	40～50 歳	50～60 歳	60 歳以上
教 授		1	5	1
准教授		3		
助 教	3			
計	3	4	5	1

3. 教育研究分野

本学科には、「自然再生分野」と「地域マネジメント分野」の 2 つの教育研究分野を設置している。本学では、教育研究分野を運営するにあたり「東京農業大学分野規程」に基づき分野主任（教授）を配置し、それぞれの分野の運営責任者としている。各教育研究分野の分野主任は次の通りである。各教員とも大学院指導教授の資格を有しており、十分な研究業績と教育実績を有している。

表-ウ.4 専任教員の職階・年齢構成（平成 29 年 4 月 1 日時点）

教育研究分野	分野主任	職階	資格
自然再生	武生 雅明	教授	大学院指導教授
地域デザイン	本田 尚正	教授	大学院指導教授

4. 教員の負担

教員の授業担当科目数において、特段に負担の多い教員はなく、学生指導に不具合は生じない。

＜国際食料情報学部 国際食農科学科＞

1. 研究室構成の考え方

本学科では上述のように自然科学、社会科学、人文科学といった幅広い領域を総合的に扱うことをその特色としている。

全体を食農技術分野と食農社会分野に大別し、前者に、植物生産学研究室、食環境科学研究室をおく。後者に、食農文化・政策研究室、食農教育研究室をおく。

各研究室の教育研究目標は以下の通りである。

1) 食農技術分野

植物生産学研究室

地域に結びついた作物・伝統野菜・特産果樹を中心に、その基本的な生理・生態に関する研究とともに、栽培環境が生育や品質に及ぼす影響等を解明することによって日本の農産物を世界に展開して行く、という観点から教育研究を行う。

食環境科学研究室

現代社会の多様な食生活に対応した食料資源の有効活用法を提言することを目的とし、食品中の栄養素や加工時に生成した成分の機能性解析を複合的な手法を用いて取り組むとともに、食文化なども含めた食環境を多角的かつ科学的な観点から教育研究を行う。

2) 食農社会分野

食農文化・政策研究室

社会学、歴史学、経済学等の視点から、日本及び世界の食農文化や農村社会等について研究教育を行うとともに、食農政策、食農法制を中心に、食品流通や食品マーケティング等も含めた食農経済全般について研究教育を行う。

食農教育研究室

食農マネジメントを実践するため、広義の食農教育（食育・農業教育）ほか、食生活に関わる諸問題、都市農村交流の在り方、生産者と消費者の連携強化、食農教育のプログラム作り等について、幅広く研究教育を行う。

学生は3年次に研究室を選択し、研究室に所属する教員を主たる指導者として専門性の高い学習を行い、卒業論文作成へとつなげていく。

また、各研究室では、より専門性を高めたい学生のニーズに応えるため、研究室員制度を設ける。この制度は、学部学生は1年次より各研究室で実施されるプロジェクトや調査研究に任意で参加することができるものであり、低学年から参加することで4年間の中で様々な形で学生の経験値を上げることができる。



図 国際食農科学科の教育課程の特色と研究室配置

2. 教員組織と年齢構成

それぞれの分野・研究室に配置される専任教員は、研究室ごとに近接分野でありつつ、相互の専門性が多様でより幅広い領域をカバーできるように計画している。

また、年齢や教育歴についても各研究室内でバランス良く配置し、学生に対して必要な対応がとれるように配慮した。学位の分野は農学、農芸化学、農業経済学が中心で、応用生命化学が1名となっている。いずれも十分な研究歴教育歴をもち、専門基礎科目、専門コア科目のほとんどが、これらの専任教員によって担当されることとする。

専任教員の年齢構成は下表の通りである。なお、完成年度の平成32年3月までに定年を迎える者が1人含まれるが、「学校法人東京農業大学有期雇用職員就業規則」等に基づき、本学科完成年度末まで引き続き同一職位で勤務し、本学の教育研究に支障を来さないようにしている。

表 国際食農科学科専任教員の職階年齢別構成

	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	計
教授			4	2	6
准教授		4	1		5
助教	3				3
計	3	4	5	2	14

本学科の特色の一つとして、実践的科目が多数配当されていることがある。専任教員の全員が、多様なフィールドをもつ研究活動を実施しており、実習等の経験も豊富であることから、実習等の科目の実施にも十分対応できる。

（オ）教員組織における既設学部への影響

本学では、建学の精神「人物を畑に還す」と教育研究の理念「実学主義」に基づき、社会の要請に的確に対応した特色のある質の高い教育研究への改革を継続するとともに、実験・実習や演習・ゼミ活動による実学教育によって、幅の広い教養、専門知識や人間力を身に付け、未来の問題を解決できる有為な人材を養成することを教育の目標としている。

それを実現するため、各学部学科には「分野・研究室制度」を設け、学科の教育分野を明確にすると同時に、実行部隊となる研究室を複数設置する体制を整えている。各学科に配置する具体的な教員数は、当該学科の教育課程の特色と学生数に応じ、大学設置基準に定める必要教員数を十分に満たした上で、規定の学内基準のもとで決定している。

この度、平成 29 年度から入学定員を変更する既設学科については、学生数の変更に伴う専任教員数の見直しを行っており、その結果は下表のとおりである。変更前に比べ教員数は減少しているが、教員一人あたりの学生数も減少しており、学生に対してより直接的な指導を行う体制を整備することができた。

従前どおりの「分野・研究室体制」の維持・継続の中で、教員組織においても、これまでと同等以上の教育環境が保たれていると判断している。

地域環境科学部及び国際食料情報学部の既設学科における教員数等

	平成 28 年度			平成 32 年度		
	収容定員	教員数	一人当りの学生数	収容定員	教員数	一人当りの学生数
地域環境科学部						
森林総合科学科	572	22	26.0	480	20	24.0
生産環境工学科	566	20	28.3	480	19	25.3
造園科学科	600	22	27.3	480	18	26.7
国際食料情報学部						
食料環境経済学科	900	22	40.9	720	20	36.0
国際バイビジネス学科	690	18	38.3	560	16	35.0

(カ) 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

世田谷キャンパスは、閑静な住宅街に囲まれた緑の多い環境で、138,152 m²の校地面積を有している。本学の教育環境については、建学の精神である「人物を畑に還す」を具現化することをテーマとし、「教育・学習に係る環境」、「生活の場としての環境」、「地球・地域に係る環境」といった側面から必要とされる機能を明確にしたうえで、「明快で機能的な空間計画」、「緑の連続的展開」を意識した整備方針に基づき、教育環境の維持・整備に努めている。

緑地や芝生広場を設け、学生の憩いの場として確保しているほか、常磐松学生会館や食堂（2ヵ所）などの屋内空間についても、学生の休息その他のスペースとして利用している。

また、キャンパス敷地内に運動場用地として 31,984 m²を有しており、グラウンド（16,336 m²）、野球場（12,650 m²）、テニスコート 3 面（1,950 m²）等を設け、正課及び課外活動等に利用している。

現在、3 学部（応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部）、1 短期大学部と 1 大学院研究科（農学研究科）を設置しており、現在の収容定員 7,709 人（大学、短大、大学院）に対し、新学部・学科が設置された場合、完成年度の収容定員は 8,053 人（大学、大学院）となり、新設前と比較し 344 人増加するが、大学の校地基準面積 76,400 m²を上回るキャンパス敷地（校地面積 138,152 m²）を有することから、既設の学部・学科との共用は十分に可能である。

2. 校舎等施設の整備計画

生命科学部各学科は教育目標及び養成する人材像を達成するために、4 年間のカリキュラムとして、バイオサイエンス学科では 93 科目（講義科目 75 科目、演習科目 7 科目、実験実習科目（実技含む）11 科目）、分子生命化学科では 90 科目（講義科目 75 科目、演習科目 6 科目、実験実習科目（実技含む）9 科目）、分子微生物学科では 93 科目（講義科目 70 科目、演習科目 10 科目、実験実習科目（実技含む）13 科目）を配している。

地域環境科学部地域創成科学科では、教育目標及び養成する人材像を達成するために、4 年間のカリキュラムとして、96 科目を配して、それぞれの内訳は、講義科目 80 科目、演習科目 5 科目、実験実習科目（実技含む）11 科目とした。

また、国際食料情報学部国際食農科学科では、教育目標及び養成する人材像を達成するために、4 年間のカリキュラムとして、126 科目を配し、それぞれの内訳は、講義科目 100 科目、演習科目 15 科目、実験実習科目（実技含む）11 科目とした。

これらを実施する施設については、主として平成 23 年度に建替えた 1 号館（講義棟）に配置する講義室 57 室、演習室 20 室、コンピュータ演習室 5 室を用い、既設学部・学科と共同で利用する。1 号館の各教室収容人数及び各教室数の内訳は、24 名収容が 10

教室、25名収容が4教室、40名収容が6教室、46名収容が8教室、92名収容が15教室、169名収容が14教室、232名収容が16教室、304名収容が2教室、306名収容が2教室で、コンピュータ演習室については、104名収容が2教室、64名収容が1教室、48名収容が2教室である。

また、実験・実習室については、現有施設を既設学部・学科と共同で利用することとしており、実験・実習に必要な器具等についても順次整備する計画である。実験・実習室の各収容人数及び各室数の内訳は、化学系実験室4室（各120名）、生物系実験室が5室（128名が1室、85名が2室、64名が2室）、食品系実験実習室が8室（120名が2室、100名が2室、98・90・70・60名が各1室）あり、その他1,080名収容の百周年記念講堂やスポーツ・レクリエーションを実施する桜丘アリーナ（学内：5,975.60 m²）及び人工芝グラウンド（学内：16,336 m²）がある。

それらに基づき、新設学科の時間割（案）[資料6](#)を作成し、既設学科で現在使用している教室使用データと照らし合わせ、新設・既設それぞれのカリキュラムが遺漏なく配当できるか検証を行い [資料7](#)、1号館では前期及び後期それぞれの平均稼働率は39%、35% [資料8](#)となり、十分に授業が実施できることを確認している。また、実験・実習室も同様に、新設・既設それぞれのカリキュラムが遺漏なく配当できることを確認している。[資料9](#)

学則変更の趣旨等を記載した書類

(東京農業大学)

資 料 目 次

- 資料 1 履修モデル (バイオサイエンス学科)
- 資料 2 履修モデル (分子生命化学科)
- 資料 3 履修モデル (分子微生物学科)
- 資料 4 履修モデル (地域創成科学科)
- 資料 5 履修モデル (国際食農科学科)
- 資料 6 生命科学部、地域創成科学科及び国際食農科学科 【時間割表】
- 資料 7 世田谷キャンパス 教室利用状況台帳
- 資料 8 平成 3 2 年度 利用教室稼働率
- 資料 9 世田谷キャンパス 実験実習室利用状況台帳

以上

バイオサイエンス学科 履修モデル【製薬・医療分野】

科目区分	1年前期 (1 F)	1年後期 (1 L)	2年前期 (2 F)	2年後期 (2 L)	3年前期 (3 F)	3年後期 (3 L)	4年前期 (4 F)	4年後期 (4 L)	科目区分
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー 必修 情報基礎 (一) 選 情報基礎 (二) 選 スポーツ・レクリエーション (一)	必修 共通演習 必修 情報基礎 (二) 選 スポーツ・レクリエーション (二)	選 ビジネスマナー 選 キャリアデザイン						単位
外国語科目	必修 英語 (一) 選 TOEIC英語 (一)	必修 英語 (二) 選 TOEIC英語 (二) 選 英会話 (一)	必修 英語 (三) 選 英会話 (二)	必修 英語 (四) 選 英語 (一)	選 ビジネス英語				11
専門基礎科目	必修 生物学 必修 化学 選 科学と哲学	必修 生命倫理							16
専門基礎科目	必修 無機化学 必修 有機化学 必修 生物統計学	必修 細胞生物学 必修 生化学 必修 微生物学 必修 生物有機化学 必修 生物物理化学	必修 分子生物学 (一) 必修 食品化学 必修 生物資源環境科学 必修 無機化学実験 必修 有機化学実験	必修 分子生物学 (二) 必修 生化学実験 必修 微生物学実験 必修 基礎生物学実験 (一)	必修 生命科学概論 必修 基礎生物学実験 (二) 必修 バイオサイエンス基礎実験				8
専門基礎科目									47
専門コア			必修 植物生理学 必修 動物生理学	必修 動物細胞工学 必修 生体高分子化学	必修 食品衛生学 選 遺伝学 選 分子遺伝学 選 動物発生学 選 実験動物学 選 免疫学	必修 バイオサイエンス応用実験 必修 科学英語論文読解 必修 栄養生化学 必修 応用微生物学 選 生物制御学	選 先端生命科学概論		32
学際領域						選 生物工学概論			2
総合科目							必修 科学論文作成法 必修 卒業論文	必修 科学論文プレゼンテーション 必修 卒業論文	8
トータル	21	22	20	17	22	12	4	6	124

バイオサイエンス学科 履修モデル【化学工業分野】

科目区分	1年前期 (1 F)	単位	1年後期 (1 L)	単位	2年前期 (2 F)	単位	2年後期 (2 L)	単位	3年前期 (3 F)	単位	3年後期 (3 L)	単位	4年前期 (4 F)	単位	4年後期 (4 L)	単位	科目区分
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー 必修 情報基礎 (一) 選 スポーツ・レクリエーション (一)	2 2 1	必修 共通演習 必修 情報基礎 (二) 選 スポーツ・レクリエーション (二)	1 2 1	選 ビジネスマナー 選 キャリアデザイン	1 1											科目区分
外国語科目	必修 英語 (一) 選 TOEIC英語 (一)	2 2	必修 英語 (二) 選 TOEIC英語 (二)	2 2	必修 英語 (三) 選 ビジネス英語	2 2	必修 英語 (四)	2									11
専門基礎科目	必修 生物学 必修 化学	2 2	必須 生命倫理 選 経済入門	2 2													14
専門基礎	必修 無機化学 必修 有機化学 必修 生物統計学 選 数学	2 2 2 2	必修 細胞生物学 必修 生化学 必修 微生物学 必修 生物有機化学 必修 生物物理化学	2 2 2 2 2	必修 分子生物学 (一) 必修 食品化学 必修 生物資源環境科学 必修 無機化学実験 必修 有機化学実験	2 2 2 3 3	必修 分子生物学 (二) 必修 生化学実験 必修 微生物学実験 必修 基礎生物学実験 必修 (一)	2 3 3 3 3	必修 生命科学概論 必修 基礎生物学実験 (二) 必修 バイオサイエンス基礎実験	2 3 3							8
専門コア					必修 植物生理学 必修 動物生理学	2 2	必修 動物細胞工学 必修 生体高分子化学	2 2	必修 食品衛生学 選 植物分子育種学 選 分子遺伝学 選 ゲノム生物学	2 2 2 2	必修 バイオサイエンス応用実験 必修 科学英語論文講読 必修 栄養生化学 必修 応用微生物学 選 生物制御学	2 2 2 2 2					49
専門領域									選 必 生物工学概論 選 知的財産概論	2 2							26
総合化									必修 科学論文作成法 必修 卒業論文	2 4	必修 生命科学プレゼンテーション法 必修 卒業論文	2 4					8
トータル単位数	21	22	22	20	17	22											124

食品製造学、科学英語削除
数学追加

バイオサイエンス学科 履修モデル【公務員】

科目区分	1年前期 (1 F)	1年後期 (1 L)	2年前期 (2 F)	2年後期 (2 L)	3年前期 (3 F)	3年後期 (3 L)	4年前期 (4 F)	4年後期 (4 L)	科目区分
総合教養科目	必修 フレッシュマンセミナー 2 必修 情報基礎 (一) 2	必修 共通演習 1 必修 情報基礎 (二) 2		選 特別講義 (一) 2					9
	必修 英語 (一) 2 選 TOEIC(英語) (一) 2	必修 英語 (二) 2 選 英会話 (一) 2	必修 英語 (三) 2 選 英会話 (二) 2	必修 英語 (四) 2	選 ビジネス英語 2				
外国語科目									16
専門教育科目	必修 生物学 2 必修 化学 2	必修 生命倫理 2 選 経済入門 2	選 日本国憲法 2						10
	必修 無機化学 2 必修 有機化学 2 必修 生物統計学 2 選 数学 2	必修 細胞生物学 2 必修 生化学 2 必修 微生物学 2 必修 生物有機化学 2 必修 生物物理化学 2	必修 分子生物学 (一) 2 必修 食品化学 2 必修 生物資源環境科学 2 必修 無機化学実験 3 必修 有機化学実験 3	必修 分子生物学 (二) 2 必修 生化学実験 3 必修 微生物学実験 3 必修 基礎生物学実験 (一) 3	必修 生命科学概論 2 必修 基礎生物学実験 (二) 3 必修 バイオサイエンス基礎実験 3				
									49
	専門コア			必修 植物生理学 2 必修 動物生理学 2	必修 動物細胞工学 2 必修 生体高分子化学 2 選 食品製造学 2	必修 食品衛生学 2 選 植物分子育理学 2 選 動物発生学 2 選 ゲノム生物学 2 選 微生物前哨学 2	必修 バイオサイエンス応用実験 2 必修 科学英語論文講読 2 必修 栄養生化学 2 必修 応用微生物学 2 選 生物前哨学 2		
学際領域					選 機器分析学概論 2	選 進化論 2			4
総合化							必修 科学論文作成法 2 必修 卒業論文 4	必修 科学プレゼンテーション 2 必修 卒業論文 4	8
	20	21	22	21	20	12	2	6	

中国語(一)、ビジネスマナー—削除
数学、特別講義(一)追加

バイオサイエンス学科 履修モデル【進学（細胞機能分野）】

科目区分	1年前期（1 F）	単位	1年後期（1 L）	単位	2年前期（2 F）	単位	2年後期（2 L）	単位	3年前期（3 F）	単位	3年後期（3 L）	単位	4年前期（4 F）	単位	4年後期（4 L）	科目区分
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1												7
	必修 情報基礎（一）	2	必修 情報基礎（二）	2												
外国語科目	必修 英語（一）	2	必修 英語（二）	2	必修 英語（三）	2	必修 英語（四）	2								16
	選 TOEIC英語（一）	2	選 英会話（一）	2	選 英会話（二）	2										
	必修 生物学	2	必修 生命倫理	2												10
	必修 化学	2														
専門基礎	選 科学と哲学	2														47
	必修 無機化学	2	必修 細胞生物学	2	必修 分子生物学（一）	2	必修 分子生物学（二）	2	必修 生命科学概論	2						
	必修 有機化学	2	必修 生化学	2	必修 食品化学	2	必修 生化学実験	3	必修 基礎生物学実験（二）	3						
	必修 生物統計学	2	必修 微生物学	2	必修 生物資源環境科学	2	必修 微生物学実験	3	必修 バイオサイエンス基礎実験	3						
			必修 生物有機化学	2	必修 無機化学実験	3	必修 基礎生物学実験（一）	3								34
			必修 生物物理化学	2	必修 有機化学実験	3										
専門コア					必修 植物生理学	2	必修 動物細胞工学	2	必修 食品衛生学	2	必修 バイオサイエンス応用実験	2	選 先端生命科学概論	2	選 生命科学技術論	2
					必修 動物生理学	2	必修 生体高分子化学	2	選 ギノム生物学	2	必修 科学英語論文講読	2				
							選 植物細胞工学	2	選 動物発生学	2	必修 栄養生化学	2				
									選 生命情報科学	2	必修 応用微生物学	2				
専門領域									選 アイソトープ利用論	2	選 生物制御学	2				2
									選 機器分析学概論	2						
総合化													必修 科学論文作成法	2	必修 生命科学プレゼンテーション法	2
													必修 卒業論文		必修 卒業論文	4
トータル単位数	20	21	20	19	20	20	19	20	20	10		4		8		124

食品製造学削除

バイオサイエンス学科 履修モデル【進学（植物分野）】

科目区分		1年前期（1 F）	単位	1年後期（1 L）	単位	2年前期（2 F）	単位	2年後期（2 L）	単位	3年前期（3 F）	単位	3年後期（3 L）	単位	4年前期（4 F）	単位	4年後期（4 L）	単位	科目区分
総合教育科目	全学共通	必修フレッシュマンセミナー 必修情報基礎（一）	2 2	必修共通演習 必修情報基礎（二）	1 2													7
	外国語科目	必修英語（一） 選TOEIC英語（一）	2 2	必修英語（二） 選英会話（一） 選TOEIC英語（二）	2 2 2	必修英語（三） 選英会話（二）	2 2	必修英語（四）	2								16	
学科基礎	学部基礎	必修生物学 必修化学 選科学と哲学	2 2 2	必須生命倫理	2													10
	専門基礎	必修無機化学 必修有機化学 必修生物統計学	2 2 2	必修細胞生物学 必修生化学 必修微生物学 必修生物有機化学	2 2 2 2	必修分子生物学（一） 必修食品化学 必修生物資源環境科学 必修無機化学実験	2 2 2 3	必修分子生物学（二） 必修生化学実験 必修微生物学実験 必修基礎生物学実験（一）	2 3 3 3	必修生命科学概論 基礎生物学実験（二） 必修バイオサイエンス基礎実験	2 3 3					47		
専門コア						必修植物生理学 必修動物生理学	2 2	必修動物細胞工学 必修生体高分子化学 選植物細胞工学	2 2 2	必修食品衛生学 選植物分子育種学 選ゲノム生物学 選生命情報科学	2 2 2 2	必修バイオサイエンス応用実験 必修科学英語論文講読 必修栄養生化学 必修応用微生物学 選生物制御学	2 2 2 2 2	選先端生命科学概論 選生命科学技術論	2 2			32
	学際領域									選必機器分析学概論	2	選必進化論	2				4	
総合化														必修科学論文作成法 必修卒業論文	2 4	生命科学プレゼンテーション法 必修卒業論文		2 4
	キャリア形成		20	21	20	19	18	12	4								124	

バイオサイエンス学科 履修モデル【進学（動物分野）】

科目区分		1年前期（1 F）	単位	1年後期（1 L）	単位	2年前期（2 F）	単位	2年後期（2 L）	単位	3年前期（3 F）	単位	3年後期（3 L）	単位	4年前期（4 F）	単位	4年後期（4 L）	単位	科目区分 単位数
総合教育科目	全学共通	必修 フレッシュマンセミナー 必修 情報基礎（一）	2 2	必修 共通演習 必修 情報基礎（二）	1 2													7
	外国語科目	必修 英語（一） 選 TOEIC英語（一）	2 2	必修 英語（二） 選 英会話（一） 選 TOEIC英語（二）	2 2 2	必修 英語（三） 選 英会話（二）	2 2	必修 英語（四）	2									16
専門教育科目	学部基礎専門	必修 生物学 必修 化学 選 科学と哲学	2 2 2	必須 生命倫理	2													10
	専門基礎	必修 無機化学 必修 有機化学 必修 生物統計学 必修 生物有機化学 必修 生物物理化学	2 2 2 2 2	必修 細胞生物学 必修 生化学 必修 微生物学 必修 生物資源環境科学 必修 無機化学実験 必修 有機化学実験	2 2 2 2 3 3	必修 分子生物学（一） 必修 食品化学 必修 生物資源環境科学 必修 無機化学実験 必修 有機化学実験	2 2 2 3 3	必修 分子生物学（二） 必修 生化学実験 必修 微生物学実験 必修 基礎生物学実験（一）	2 3 3 3	必修 生命科学概論 必修 基礎生物学実験（二） 必修 バイオサイエンス基礎実験	2 3 3							47
専門教育科目	専門コア			必修 植物生理学 必修 動物生理学	2 2	必修 植物細胞工学 必修 生体高分子化学 選 植物細胞工学	2 2 2	必修 食品衛生学 選 分子遺伝学 選 動物発生学 選 ゲノム生物学 選 生命情報科学 選 実験動物学	2 2 2 2 2 2	必修 バイオサイエンス応用実験 必修 科学英語論文講読 必修 栄養生化学 必修 応用微生物学	2 2 2 2	選 先端生命科学概論	2	選 生命科学技術論	2			34
	学際領域																	2
総合化	学際領域																	2
	総合化													必修 科学論文作成法 必修 卒業論文	2 4	必修 生命科学プレゼンテーション法 必修 卒業論文	2 4	8
セメスター別単位数		20	21	20	19	22	8	4	8	2	4	8	2	4	8	2	8	総単位数 124

食品製造学削除

分子生命化学科 履修モデルA【化学系企業、生物関連の科学技術系産業、進学（大学院等）】

科目区分	1年前期（1 F）		1年後期（1 L）		2年前期（2 F）		2年後期（2 L）		3年前期（3 F）		3年後期（3 L）		4年前期（4 F）		4年後期（4 L）		科目区分
	単位		単位		単位		単位		単位		単位		単位		単位		
総合教育科目	必修 フレッシュコミュニケーションセミナー	2	必修 共通演習	1													9
	必修 情報基礎（一）	2	必修 情報基礎（二）	2													
	選 スポーツ・レクリエーション（一）	1	選 スポーツ・レクリエーション（二）	1													
外国語科目	必修 英語（一）	2	必修 英語（二）	2	必修 英語（三）	2	必修 英語（四）	2									10
	選 ドイツ語（一）	2															
	必修 生物学	2	必修 生命倫理	2	必修 日本国憲法	2											
基礎科目	必修 化学	2															8
	必修 化学量論	2	必修 有機化学（一）	2	必修 無機化学	2	必修 生命科学概論	2									
	必修 基礎有機化学	2	必修 物理化学（一）	2	必修 有機化学（二）	2	必修 天然物化学実験	3									
学科専門基礎	必修 生物統計学	2	必修 高分子化学概説	2	必修 物理化学（二）	2	必修 高分子化学実験	3									43
			必修 基礎数学（一）	2	必修 基礎数学（二）	2											
			必修 基礎物理学（一）	2	必修 基礎物理学（二）	2											
学科専門コア			必修 基礎及び有機化学実験	3	必修 有機合成化学実験	3											37
	必修 農業と化学	2			必修 生命高分子学（一）	2	必修 生命高分子学（二）	2	必修 単離精製方法論	2	必修 天然物化学	2	選 機能性物質論	2			
	必修 農場実習	1					必修 生物無機化学（一）	2	必修 生命高分子化学	2	必修 農薬学	2					
学際領域							必修 分析化学	2	選 機器分析学	2	必修 農産物利用学	2					4
							必修 生体有機化学	2	選 生物無機化学（二）	2	応用分子生命化学実験	2					
									選 生化学	2	選 天然物合成化学	2					
総合化					選 危険物取扱法	2					選 化学工学	2					13
									必修 卒業論文演習	1			必修 分子生命化学プレゼンテーション（一）	2	必修 分子生命化学プレゼンテーション（二）	2	
													必修 分子生命化学文献講読（一）	2	必修 分子生命化学文献講読（二）	2	
セメスター別単位数		22	21	22	20	11	14	6					必修 卒業論文	4	必修 卒業論文	4	124
総単位数																	

分子生命化学科 履修モデルB【農業従事、食品関連産業、中学・高校教員、公務員等】

科目区分		1年前期（1 F）	単位	1年後期（1 L）	単位	2年前期（2 F）	単位	2年後期（2 L）	単位	3年前期（3 F）	単位	3年後期（3 L）	単位	4年前期（4 F）	単位	4年後期（4 L）	単位	科目区分
総合教育科目	全学共通	必修フレッシュセミナー 必修情報基礎（一） 選インターナショナル・スタディーズ（一）	2 2 2	必修共通演習 必修情報基礎（二）	1 2	選ビジネスマナー	1	選インターナショナル・スタディーズ（二）	2			選インターンシップ	1					13
	外国語科目	必修英語（一）	2	必修英語（二）	2	必修英語（三）	2	必修英語（四）	2									8
	専門基礎	必修生物学 必修化学	2 2	必修生命倫理 選必経済入門	2 2					選地学	2							10
専門教育科目	学科専門基礎	必修化学量論 必修基礎有機化学 必修生物統計学	2 2 2	必修有機化学（一） 必修物理化学（一） 必修高分子化学概説	2 2 2	必修無機化学 必修有機化学（二） 必修物理化学（二） 必修基礎数学（二） 必修基礎物理学（二） 必修有機合成化学実験 必修無機及び分析化学実験	2 2 2 2 2 3 3	必修生命科学概論 必修天然物化学実験 必修高分子化学実験 選企業論	2 3 3 2									45
	学科専門コア	必修農業と化学 必修農場実習	2 1			必修生命高分子学（一） 必修生物無機化学（一） 必修分析化学 必修生体有機化学	2 2 2 2	必修生命高分子学（二） 必修生物無機化学（一） 必修分析化学 必修生体有機化学	2 2 2 2	必修単離精製方法論 必修生命高分子化学 選必生物機能分子設計学 選生物無機化学（二） 選生化学	2 2 2 2 2	必修天然物化学 必修農薬学 必修農産物利用学 応用分子生命化学実験 選微生物利用学	2 2 2 2 2					33
	学際領域								選ケミカルバイオロジー	2								
総合化	総合化									必修卒業論文演習	1			必修分子生命化学プレゼンテーション法（一） 必修分子生命化学文献読誦（一） 必修卒業論文	2 2 4	必修分子生命化学プレゼンテーション法（二） 必修分子生命化学文献読誦（二） 必修卒業論文	2 2 4	13
	ゼミスター別単位数		21	22	21		22		22		15	11	4		8			124

分子微生物学科 履修モデル【食品製造・研究開発分野】

科目区分	1年前期(1F)	1年後期(1L)	2年前期(2F)	2年後期(2L)	3年前期(3F)	3年後期(3L)	4年前期(4F)	4年後期(4L)	単位	科目区分別単位数
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	必修 共通演習	選 キャリアデザイン		選 特別講義(一)	選 インタナショナル			2	
	必修 情報基礎(一)	必修 情報基礎(二)								
	選 スポープレジャーゲン(一)	選 スポープレジャーゲン(二)								
	選 インターナショナル・スタディーズ(一)	選 インターナショナル・スタディーズ(二)								18
外国語科目	必修 英語(一)	必修 英語(二)	必修 英語(三)	必修 英語(四)	選 ビジネス英語	選 起業論			2	
	選 中国語(一)	選 英会話(一)	選 英会話(二)							20
学部基礎専門	必修 生物学	必修 生命倫理	選 日本国憲法		必修 生命科学概論				2	
	必修 化学	選 物理学								12
専門基礎	必修 生物統計学	必修 微生物学(一)	必修 生物環境科学	必修 ハイオインフオマテイク	選 細胞微生物学	必修 英語論文購読			2	
	必修 無機・有機化学	必修 生物化学	必修 分子生物学(一)	必修 分子細胞生物学		選 機器分析学			2	
		必修 基礎化学実験	必修 動物生理学							
		必修 分析化学実験	必修 植物生理学							
専門コア			必修 微生物学(二)	必修 分子生物学(二)	必修 応用微生物学	必修 食品衛生概論	必修 分子微生物学概論	先導分子微生物学技術概論	2	34
			必修 分子微生物学演習(一)	必修 ハイオプロセス工学	必修 食と科学	必修 食品製造概論			2	
				必修 植物病理学	必修 分子微生物学演習(三)	必修 免疫・生体防御学			2	
				必修 分子生物学実験	必修 分子生物学演習(四)	必修 分子微生物学演習(四)			1	
学際領域					選 科学メディア論	選 知的財産概論			2	28
										4
総合文化							必修 プレゼンテーション演習	必修 分子微生物学特別実験	2	8
								必修 卒業論文	4	
セメスター別単位数	21	22	22	15	15	17	4	8		124

分子微生物学科 履修モデル【食品・医薬品質管理】

[illegible]

分子微生物学科 履修モデル【医薬品分野】

科目区分	1年前期(1F)	1年後期(1L)	2年前期(2F)	2年後期(2L)	3年前期(3F)	3年後期(3L)	4年前期(4F)	4年後期(4L)	単位	科目区分 別単位数	
総合教育科目	必修 フレッシュマン・セミナー	2	必修 共通演習	1	選 ビジネスマナー	1		選 インタビュアップ	2	16	
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2							
	選 スポーツ・レクリエーション(一)	1	選 スポーツ・レクリエーション(二)	1							
	選 インターナショナル・スタディーズ(一)	2									
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2		18	
	選 スペイン語(一)	2	選 英会話(一)	2	選 英会話(二)	2					
	選 TOEIC英語(一)	2									
学術科目 基礎専門	必修 生物学	2	必修 生命倫理	2	選 日本国憲法	2		必修 生命科学概論	2	14	
	必修 化学	2	選 物理学	2							
			選 経済入門	2							
専門基礎	必修 生物統計学	2	必修 微生物学(一)	2	必修 生物環境科学	2	バイオインフォマティクス	2	必修 英語論文購読	2	34
	必修 無機・有機化学	2	必修 生物化学	2	必修 分子生物学(一)	2	必修 分子細胞生物学	2	選 機器分析学	2	
			必修 基礎化学実験	2	必修 動物生理学	2					
			必修 分析化学実験	2	必修 植物生理学	2					
専門コア			必修 微生物学実験	2	必修 微生物学実験	2					
			必修 生物化学実験	2	必修 生物化学実験	2					
					必修 微生物学(二)	2	必修 分子生物学(二)	2	必修 食品衛生概論	2	先週分子微生物学概論
			必修 分子微生物学演習(一)	1	必修 分子微生物学演習	1	必修 バイオプロセス工学	2	必修 食品製造概論	2	
					必修 植物病理学	2	必修 植物病理学	2	必修 免疫・生体防御学	2	
			必修 分子生物学実験	2	必修 分子生物学実験	2	必修 分子生物学演習(三)	1	必修 免疫・生体防御学	2	
学際領域					必修 分子生物学実験	2	必修 分子生物学実験	2	必修 分子生物学演習(四)	1	
					必修 分子生物学演習	1	必修 分子生物学演習(二)	1	選 実験データ解析概論	2	
							選 アイソトープ利用論	2	選 知的財産概論	2	
総合化					選 科学メディア論	2					
							必修 プレゼンテーション演習	2	必修 分子微生物学特別実 験	2	分子微生物学特別実 験
セメスター 別単位数	21	22	22	15	17	17	4	6			

總單位數

分子微生物学科 履修モデル【環境科学・検査分野】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1	選 ビジネスマナー	1			選 特別講義(一)	2	選 インターンシップ	2					
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2													
外国語科目	選 スポーツ・レクリエーション(一)	1	選 スポーツ・レクリエーション(二)	1													16
	選 インターナショナル・スタディーズ(一)	2															
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2	選 ビジネス英語	2	選 起業論	2					20
	選 中国語(一)	2	選 英会話(一)	2	選 英会話(二)	2											
外国語科目	選 TOEIC英語(一)	2															
	必修 生物学	2	必修 生命倫理	2	選 日本国憲法	2			必修 生命科学概論	2							
外国語科目	必修 化学	2	選 物理学	2													
	必修 化学	2	選 経済入門	2													
専門基礎	必修 生物統計学	2	必修 微生物学(一)	2	必修 生物環境科学	2	必修 ス	2	選 極限微生物学	2	必修 英語論文講読	2					14
	必修 無機・有機化学	2	必修 生物化学	2	必修 分子生物学(一)	2	必修 分子細胞生物学	2			選 機器分析学	2					
専門基礎			必修 基礎化学実験	2	必修 動物生理学	2											
			必修 分析化学実験	2	必修 植物生理学	2											
専門基礎					必修 微生物学実験	2											
					必修 生物化学実験	2											
専門コア																	34
					必修 微生物学(二)	2	必修 分子生物学(二)	2	必修 応用微生物学	2	必修 食品衛生概論	2	必修 食品製造概論	2	必修 免疫・生体防御学	2	
専門コア					必修 分子微生物学演習(一)	1	必修 バイオプロセス工学	2	必修 食と科学	2	必修 分子微生物学演習(三)	1	必修 分子微生物学演習(四)	1	必修 実験データ解析概論	2	30
							必修 植物病理学	2	必修 分子生物学実験	2	必修 分子生物学演習(二)	1					
学際領域																	2
									選 アイソトープ利用論	2							
総合化																	8
													必修 プレゼンテーション演習	2	必修 分子微生物学特別実	2	
セメスター別単位数		21		22	22	22	15	15		15		17	4	4	8	8	124

総単位数

分子微生物学科 履修モデル【教育分野】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1	選 キャリアデザイン	1			選 特別講義(一)	2							
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2													
外国語科目	選 スポーツ・レクリエーション(一)	1	選 (二)	1													14
	選 インターナショナル・スタディーズ(一)	2															
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2	選 ビジネス英語	2							18
	選 中国語(一)	2	選 英会話(一)	2	選 英会話(二)	2											
外国語科目	選 TOEIC英語(一)	2															
	必修 生物学	2	必修 生命倫理	2	選 日本国憲法	2			必修 生命科学概論	2							
外国語科目	必修 化学	2	選 物理学	2													
	必修 化学	2	選 地学	2													
専門基礎	必修 生物統計学	2	必修 微生物学(一)	2	必修 生物環境科学	2	バイオインフオマティクス	2	選 極限微生物学	2	必修 英語論文講読	2					14
	必修 無機・有機化学	2	必修 生物化学	2	必修 分子生物学(一)	2	必修 分子細胞生物学	2		2	選 機器分析学	2					
専門基礎			必修 基礎化学実験	2	必修 動物生理学	2											
			必修 植物生理学	2	必修 植物生理学	2											
専門基礎			必修 分析化学実験	2	必修 微生物学実験	2											
					必修 生物化学実験	2											
専門コア					必修 微生物学(二)	2	必修 分子生物学(二)	2	必修 応用微生物学	2	必修 食品衛生概論	2	必修 分子微生物学概論	2	先選 分子微生物学概論	2	34
					必修 分子微生物学演習(一)	1	必修 バイオプロセス工学	2	必修 食と科学	2	必修 食品製造概論	2	選 講				
専門コア							必修 植物病理学	2	必修 分子微生物学演習(三)	1	必修 免疫・生体防御学	2					30
							必修 分子生物学実験	2	必修 分子微生物学演習(四)	1	必修 分子微生物学演習	2					
専門コア							必修 分子生物学演習(二)	1			選 実験データ解析概論	2					6
									選 科学メディア論	2	選 知的財産概論	2					
総合									選 アイソトープ利用論	2			必修 プレゼンテーション演習	2	必修 分子微生物学特別実	2	8
															必修 卒業論文	4	
セメスター別単位数		21		22		22		15		17		15		4		8	124

分子微生物学科 履修モデル【公務員】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1	選 ビジネスマナー	1	選 特別講義(一)	2	選 特別講義(二)	2	選 特別講義(三)	2	選 特別講義(四)	2			
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2													
	選 スポーツ・レクリエーション(一)	1	選 スポーツ・レクリエーション(二)	1													
	選 インターナショナル・スタディーズ(一)	2	選 インターナショナル・スタディーズ(二)	2													
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2	選 ビジネス英語	2							22
	選 TOEIC英語(一)	2	選 英会話(一)	2	選 英会話(二)	2											
学科学部基盤専門基礎	必修 生物学	2	必修 生命倫理	2	選 日本国憲法	2			必修 生命科学概論	2							16
	必修 化学	2	選 経済入門	2													
専門基礎	必修 生物統計学	2	必修 微生物学(一)	2	必修 生物環境科学	2	必修 ス	2			必修 英語論文講読	2					12
	必修 無機・有機化学	2	必修 生物化学	2	必修 分子生物学(一)	2	必修 分子細胞生物学	2			選 機器分析学	2					
	選 数学	2	必修 基礎化学実験	2	必修 動物生理学	2											
			必修 分析化学実験	2	必修 植物生理学	2											
専門コア					必修 微生物学実験	2											34
					必修 生物化学実験	2											
学際領域総合化					必修 微生物学(二)	2	必修 分子生物学(二)	2	必修 応用微生物学	2	必修 食品衛生概論	2	先導分子微生物学概論	2			28
					必修 分子微生物学演習(一)	1	必修 バイオプロセス工学	2	必修 食と科学	2	必修 食品製造概論	2					
							必修 植物病理学	2	必修 分子微生物学演習(三)	1	必修 免疫・生体防御学	2					
							必修 分子生物学実験	2	必修 分子微生物学演習(四)	1	必修 分子微生物学演習	2					
セメスター別単位数					必修 分子生物学演習(二)	1	必修 分子生物学演習(二)	1			選 実験データ解析概論	2					2
									選 科学メディア論	2	選 知的財産概論	2					4
													必修 プレゼンテーション演習	2	必修 分子微生物学特別実験	2	
															必修 卒業論文	4	8
															総単位数		124

分子微生物学科 履修モデル【進学】

科目区分		1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	科目区分	
総合教育科目	全学共通	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1	選 キャリアデザイン	1	選 特別講義(一)	2	選 特別講義(二)	2						14	
		必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2													
		選 スポーツ・レクリエーション(一)	1	選 (二)	1													
外国語科目	学部・学域共通	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2			選 起業論	2				18	
		選 TOEIC英語(一)	2	選 英会話(一)	2	選 英会話(二)	2											
		選 TOEIC英語(二)	2	選	2					必修 生命科学概論	2							
専門基礎	学科学部専門基礎	必修 生物学	2	必修 生命倫理	2												12	
		必修 化学	2	選 物理学	2													
		選 科学と哲学	2															
専門基礎	専門基礎	必修 生物統計学	2	必修 微生物学(一)	2	必修 生物環境科学	2	必修 ス	2	選 極限微生物学	2	必修 英語論文購読	2				36	
		必修 無機・有機化学	2	必修 生物化学	2	必修 分子生物学(一)	2	必修 分子細胞生物学	2			選 機器分析学	2					
		選 数学	2	必修 基礎化学実験	2	必修 動物生理学	2											
専門コア	専門コア			必修 分析化学実験	2	必修 植物生理学	2	必修 分子生物学実験	2	必修 分子微生物学演習(三)	1	必修 免疫・生体防御学	2	必修 分子微生物学概論	2	必修 食品衛生概論	2	30
						必修 微生物学実験	2	必修 植物病理学	2	必修 分子生物学演習	1	必修 (四)	2	必修 食品製造概論	2	必修 食品製造概論	2	
						必修 生物化学実験	2	必修 分子生物学演習(二)	1	必修 分子生物学演習	2	選 実験データ解析概論	2	選 論	2	選 論	2	
学際領域	学際領域					必修 微生物学(二)	2	必修 分子生物学(二)	2	必修 応用微生物学	2	必修 食品衛生概論	2	必修 分子微生物学概論	2	必修 分子微生物学概論	2	6
						必修 バイオプロセス工学	1	必修 バイオプロセス工学	2	必修 食と科学	2	必修 食品製造概論	2					
								必修 植物病理学	2	必修 分子微生物学演習(三)	1	必修 免疫・生体防御学	2					
総合化	総合化			必修 分子生物学実験	2	必修 分子生物学実験	2	必修 分子生物学実験	2	必修 分子微生物学演習(四)	1	必修 分子微生物学演習	2	必修 プレゼンテーション演習	2	必修 分子微生物学特別実験	2	8
						必修 分子生物学演習(二)	1	必修 分子生物学演習	1			選 実験データ解析概論	2	必修 卒業論文	4	必修 卒業論文	4	
セメスター別単位数		21	22	20	17	15	17	15	17	4	8	2	4	8	2	4	総単位数	
124																		

専門教育科目

【大学院進学】

科目区分		1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分 科目別単位数				
総合教育科目	必修	フレッシュマンセミナー	2	必修	共通演習	1												8				
	必修	情報基礎(一)	2	必修	情報基礎(二)	2																
	必修	スポーツ・レクリエーション(一)	1																			
外国語科目	必修	英語(一)	2	必修	英語(二)	2	必修	英語(三)	2	必修	英語(四)	2	科学英語	2				10				
基礎学部門	選必	地学	2	選必	科学の歴史	2	選必	統計学	2	選必	地域と文化	2	選必	技術者倫理	2			16				
	必修	地域環境科学概論	2							選必	現代社会と経済	2										
	必修	基礎植物学	2	必修	里山生態学概論	2	必修	測量学	2	必修	自然再生施工論	2										
専門基礎	必修	基礎環境論	2	必修	施設材料科学	2	必修	保全生態学	2	必修	地域防災論	2						34				
	必修	実用数物科学	2	必修	農村・都市交流論	2	必修	野生動物と生息環境	2	必修	環境教育学	2										
			必修	景観生態学	2	必修	土と水の科学	2	必修	合意形成デザイン論	2											
専門コア				必修	土と水の科学	2	必修	野生動物資源の管理	2									32				
				必修	環境植物学	2																
				必修	農域物質循環論	2	必修	農域空間情報論	2	必修	農と伝統文化	2	必修	地域創成関連法規	2							
学領領域				必修	地域環境計画学	2	必修	作物栽培管理学	2	必修	地域環境計画学	2						4				
					群集生態学	2		土壌肥科学	2		環境修復論	2										
					地域保全学	2		河川水文学	2		文化産業・観光計画学	2										
総合化	必修	地域交流実習	2	必修	地城創成フィールド実習(一)	2	必修	地城創成総合実習(一)	2	必修	専攻実験・実習(一)	2	必修	専攻実験・実習(二)	2	必修	卒業論文	4				
				必修	測量実習	2	必修	地城創成総合実習(二)	2													
ヤンスタワー別単位数		19	15	20	20	20	22	18	4	6	20	124										
開修すべき教養科目群																			開修すべき専門科目群		総単位数	
総合教育科目		8 単位	外国語科目	10 単位	学部共通専門科目	4 単位	専門基礎科目	34 単位	専門コア科目	32 単位	学際領域科目	4 単位	総合化科目	20 単位								
必修科目		15 単位	選択必修科目	14 単位	選択科目	3 単位	必修科目	66 単位	選択必修科目	0 単位	選択科目	28 単位	必修科目	66 単位								

地域創成科学科履修モデル【公務員（一般）】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区別 単位数
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1							インターンシップ	1					
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2													
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2	科学英語	2							8
基礎・専門共通	選必修 化学	2	選必修 文学概論	2	選必修 統計学	2	選必修 日本国憲法	2	選必修 技術者倫理	2	選必修 国際関係と社会問題	2					10
	選必修 地学	2	選必修 環境科学概論	2			選必修 地域と文化	2	選必修 現代社会と経済	2							
専門基礎	必修 基礎植物学	2	必修 里山生態学概論	2	必修 測量学	2	必修 自然再生施工論	2									20
	必修 地域環境論	2	必修 施設材料科学	2	必修 保全生態学	2	必修 地域防災論	2									
	必修 実用数物科学	2	必修 農村・都市交流論	2	必修 野生動物と生態環境	2	必修 環境教育学	2									
					必修 景観生態学	2	必修 合意形成デザイン論	2									
専門コア					必修 土と水の科学	2	野生動物資源の管理	2									34
					必修 環境植物学	2											
									必修 農域物質循環論	2	必修 農域空間情報論	2	農と伝統文化	2	必修 地域創成関連法規	2	
									必修 地域環境計画学	2	作物栽培管理学	2	農と健康	2			
学領域									植栽技術論	2	環境修復論	2					
									農域植生学	2	農地保全学	2					
									地域環境政策学	2	文化産業・観光計画学	2					26
総合化	必修 地域交流実習	2	地域創成フィールド実習(一)	2	地域創成フィールド実習(二)	2	地域創成総合実習(一)	2	農山漁村インターンシップ	2	必修 専攻実験・実習(一)	2	必修 専攻実験・実習(二)	2	必修 卒業論文	4	
			必修 測量実習	2	必修 測量実習	2	地域創成総合実習(二)	2									22
セミスター別単位数	20	15	20	20	22	20			20	15	6	6					124
専 門 教 育 科 目																	
履修すべき教養科目群																	
履修すべき専門科目群																	
総合教育科目	8 単位	外国語科目	10 単位	学部共通基礎科目	18 単位	学部共通専門科目	2 単位	専門基礎科目	34 単位	専門コア科目	26 単位	学際領域科目	4 単位	総合化科目	22 単位	計	88 単位
必修科目	15 単位	選択必修科目	18 単位	選択科目	36 単位	選択科目	3 単位	必修科目	66 単位	選択必修科目	0 単位	選択必修科目	0 単位	選択科目	22 単位	計	88 単位

地域創成科学科履修モデル【公務員（土木系、農業系）】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分別単位数																	
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1							インターンシップ	1																						
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2																														
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2	科学英語	2							8																	
基礎学部・共通専門	選必 地学	2	選必 物理学	2	選必 統計学	2	選必 日本国憲法	2	選必 技術者倫理	2	選必 国際関係と社会問題	2					10																	
	必修 地域環境科学概論	2	選必 科学の歴史	2					選必 現代社会と経済	2																								
専門基礎	必修 基礎植物学	2	必修 里山生態学概論	2	必修 測量学	2	必修 自然再生施工論	2									18																	
	必修 地域環境論	2	必修 施設材料科学	2	必修 保全生態学	2	必修 農域防災論	2																										
	必修 実用動物科学	2	必修 農村・都市交流論	2	必修 野生動物と生息環境	2	必修 環境教育学	2																										
					必修 景観生態学	2	必修 合意形成デザイン論	2																										
					必修 土と水の科学	2	野生動物資源の管理	2									34																	
専門コア									必修 農域物質循環論	2	必修 農域空間情報論	2	農と健康	2	必修 地域創成関連法規	2																		
									必修 地域環境計画学	2	作物栽培管理学	2																						
									樹木医学概論	2	環境修復論	2																						
									植栽技術論	2	農地保全学	2																						
									農域補生物学	2	河川水文学	2	文化産業・観光計画学	2			30																	
学領域際								必修 環境アセスメント論	2	必修 環境アセスメント論	2					4																		
総合化	必修 地域交流実習	2	必修 地域創成フィールド実習(一)	2	地域創成フィールド実習(二)	2	地域創成総合実習(一)	2	必修 専攻実験・実習(一)	2	必修 専攻実験・実習(二)	2	必修 卒業論文	4			20																	
セメスター別単位数		18		17	20	20		20		22		17	4	6			総単位数																	
																	124																	
履修すべき教養科目群																	履修すべき専門科目群																	
総合教育科目				8 単位	外国語科目				10 単位	学部共通基礎科目				16 単位	学部共通専門科目				2 単位	専門基礎科目				34 単位	学際領域科目				4 単位	総合化科目				20 単位
必修科目				15 単位	選択必修科目				16 単位	学部共通基礎科目				16 単位	学部共通専門科目				2 単位	専門基礎科目				34 単位	選択必修科目				0 単位	選択必修科目				24 単位
選択必修科目				16 単位	選択必修科目				3 単位	学部共通基礎科目				34 単位	学部共通専門科目				2 単位	専門基礎科目				34 単位	選択必修科目				0 単位	選択必修科目				24 単位

地域創成科学科履修モデル【建設業】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分別単位数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1	必修 英語(三)	2	ビジネスマナー	1	必修 英語初級	2	TOEIC英語中級	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(四)	2	必修 英語(四)	2	必修 英語初級	2	TOEIC英語中級	2					8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
基礎・専門共通科目	選択 地学	2	選択 物理学	2	選択 統計学	2	選択 地域と文化	2	選択 技術者倫理	2	選択 国際関係と社会問題	2					12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
	必修 地域環境科学概論	2	選択 科学の歴史	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
専門基礎	必修 基礎植物学	2	必修 里山生態学概論	2	必修 測量学	2	必修 自然再生施工論	2	選択 樹木医学概論	2	必修 環境修復論	2	必修 農地保全学	2	必修 河川水文学	2	必修 文化産業・観光計画学	2		32																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	必修 地域環境論	2	必修 施設材料科学	2	必修 保全生態学	2	必修 地域環境計画学	2		必修 作物栽培管理学		2		必修 環境復元論		2		必修 農地保全学			2	必修 河川水文学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	必修 実用数物科学	2	必修 農村・都市交流論	2	必修 野生動物と生態環境	2	必修 環境教育学	2		必修 樹木医学概論		2		必修 環境修復論		2		必修 農地保全学			2	必修 河川水文学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
			必修 景観生態学	2	必修 景観生態学	2	必修 合意形成デザイン論	2		必修 植栽技術論		2		必修 環境修復論		2		必修 農地保全学			2	必修 河川水文学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
			必修 土と水の科学	2	必修 土と水の科学	2	必修 合意形成デザイン論	2		必修 農基盤工学		2		必修 河川水文学		2		必修 文化産業・観光計画学			2	必修 河川水文学	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
		必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学	2	必修 環境植物学

地域創成科学科履修モデル【農林・緑化関連業】

科目区分		1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分別単位数					
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2		必修 共通演習	1							インターンシップ	1					8					
	必修 情報基礎(一)	2		必修 情報基礎(二)	2																		
外国語科目	必修 英語(一)	2		必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2									8					
専門基礎	選必修 生物学	2				選必修 統計学	2	選必修 地域と文化	2	選必修 技術者倫理	2							14					
	選必修 地学	2								選必修 現代社会と経済	2												
	必修 地域環境科学概論	2																					
	必修 基礎植物学	2		必修 里山生態学概論	2	必修 測量学	2	必修 自然再生施工論	2														
専門基礎	必修 地域環境論	2		必修 施設材料科学	2	必修 保全生態学	2	必修 農域防災論	2									34					
	必修 実用数物科学	2		必修 農村・都市交流論	2	必修 野生動物と生態環境	2	必修 環境教育学	2														
					必修 景観生態学	2	必修 合意形成デザイン論	2															
					必修 土と水の科学	2	野生動物資源の管理	2															
専門コア					必修 環境植物学	2				必修 農域物質循環論	2	必修 農域空間情報論	2	農と伝統文化	2	必修 地域創成関連法規	2	34					
										必修 地域環境計画学	2	作物栽培管理学	2	農と健康	2								
										樹木医学概論	2	土壌肥科学	2										
										群衆生態学	2	環境修復論	2										
学領域										植栽技術論	2	農地保全学	2					34					
										農域植生学	2	河川水文学	2										
										地域環境政策学	2	文化産業・観光計画学	2										
						必修 地理情報システム論	2	必修 環境アセスメント論	2														
総合化	必修 地域交流実習	2		必修 地域創成フィールド実習(一)	2	必修 地域創成フィールド実習(二)	2	必修 地域創成総合実習(一)	2	農山漁村インターンシップ	2	必修 専攻実験・実習(一)	2	必修 専攻実験・実習(二)	2	必修 卒業論文	4	22					
					必修 測量実習	2	必修 測量実習	2	必修 地域創成総合実習(二)	2													
セメスター別単位数		20		13	20	20	20	20	22		17		6					124					
総単位数																							
履修すべき教養科目群																							
総合教育科目				8 単位	外国語科目				12 単位	履修すべき専門科目群				34 単位	学際領域科目				4 単位	総合化科目			22 単位
					計				28 単位											計			96 単位
必修科目				15 単位	選択科目				1 単位	必修科目				66 単位	選択必修科目			0 単位	選択科目			30 単位	

地域創成科学科履修モデル【観光・レクリエーション業】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分 別単位数
総合 教育 科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1			ビジネスマナー	1									10
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2													
	スポーツ・レクリエーション(一)	1	スポーツ・レクリエーション(二)	1													
外国語 科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2	TOEIC英語初級	2	TOEIC英語中級	2					16
	中国語(一)/ドイツ語(一)	2	中国語(二)/ドイツ語(二)	2													
基礎 部 共通 専門	選必 地学	2	選必 文学概論	2	選必 統計学	2	選必 日本国憲法	2	選必 技術者倫理	2	選必 国際関係と社会問題	2					20
	必修 地域環境科学概論	2			源流文化学	2	選必 地域と文化	2	選必 現代社会と経済	2							
専門 基礎	必修 基礎植物学	2	必修 里山生態学概論	2	必修 測量学	2	必修 自然再生施工論	2									32
	必修 地域環境論	2	必修 施設材料科学	2	必修 保全生態学	2	必修 農域防災論	2									
	必修 実用数物科学	2	必修 農村・都市交流論	2	必修 野生動物と生態環境	2	必修 環境教育学	2									
専門 コア					必修 景観生態学	2	必修 合意形成デザイン論	2									20
					必修 土と水の科学	2											
					必修 環境植物学	2											
学領 際域									必修 農域物質循環論	2	必修 農域空間情報論	2	農と伝統文化	2	必修 地域創成関連法規	2	4
									必修 地域環境計画学	2	農地保全学	2	農と健康	2			
									農域植生学	2	文化産業・観光計画学	2					
総合 化	必修 地域交流実習	2	必修 地域創成フィールド実習(一)	2	必修 地域創成フィールド実習(二)	2	必修 地域創成総合実習(一)	2	必修 環境アセスメント論	2					必修 卒業論文	4	22
			必修 地域創成フィールド実習(二)	2	必修 測量実習	2	必修 地域創成総合実習(二)	2			必修 専攻実験・実習(一)	2	必修 専攻実験・実習(二)	2			
セミスター別単位数																	6

國語すべし教養科目群		國語すべし専門科目群	
総合教養科目	10 単位	外国語科目	16 単位
		学部共通基礎科目	16 単位
		計	42 単位
		学部共通専門科目	4 単位
		専門基礎科目	32 単位
		専門工科目	20 単位
		学際領域科目	4 単位
		総合化科目	22 単位
		計	82 単位
必修科目	15 単位	選択必修科目	16 単位
		選択科目	11 単位
		選択必修科目	66 単位
		必修科目	0 単位
		選択必修科目	16 単位
		選択科目	16 単位

地域創成科学科履修モデル【環境関連NGO・NPO】

科目区分	1年前期(1F)	単位	1年後期(1L)	単位	2年前期(2F)	単位	2年後期(2L)	単位	3年前期(3F)	単位	3年後期(3L)	単位	4年前期(4F)	単位	4年後期(4L)	単位	科目区分別単位数												
総合教育科目	必修 フレッシュマンセミナー	2	必修 共通演習	1													8												
	必修 情報基礎(一)	2	必修 情報基礎(二)	2																									
	スポーツ・レクリエーション(一)	1															14												
外国語科目	必修 英語(一)	2	必修 英語(二)	2	必修 英語(三)	2	必修 英語(四)	2	TOEIC英語初級 科学英語	2 2	TOEIC英語中級	2																	
専門基礎科目	選必 地学	2	選必 文学概論	2	選必 統計学	2	選必 地域と文化	2	選必 技術者倫理	2	選必 国際関係と社会問題	2					18												
	必修 地域環境科学概論	2			源流文化学	2			選必 現代社会と経済	2																			
専門基礎	必修 基礎植物学	2	必修 里山生態学概論	2	必修 測量学	2	必修 自然再生施工論	2									32												
	必修 地域環境論	2	必修 施設材料科学	2	必修 保全生態学	2	必修 農域防災論	2																					
専門コア	必修 実用微生物科学	2	必修 農村・都市交流論	2	必修 野生動物と生態環境	2	必修 環境教育学	2									26												
					必修 景観生態学	2	必修 合意形成デザイン論	2	必修 農域物質循環論	2	必修 農域空間情報論	2	農と伝統文化	2	必修 地域創成関連法規	2													
学際領域					必修 土と水の科学	2			必修 地域環境計画学	2	作物栽培管理理学	2	農と健康	2			4												
					必修 環境植物学	2			群衆生態学	2	環境修復論	2																	
総合化	必修 地域交流実習	2	必修 農山漁村インターンシップ	2	必修 地理情報システム論	2	必修 環境アセスメント論	2									22												
セメスター別単位数		19	必修 環境アセスメント論	2	必修 環境アセスメント論	2	必修 環境アセスメント論	2																					
総単位数																	124												
履修すべき専門科目群																													
総合教育科目				8 単位	学部共通基礎科目				14 単位	学部共通専門科目				4 単位	専門基礎科目				32 単位	学際領域科目				4 単位	総合化科目				22 単位
必修科目				15 単位	選択必修科目				14 単位	選択必修科目				14 単位	選択必修科目				60 単位	選択必修科目				0 単位	選択必修科目				22 単位

コース

食農教育・文化発信者

概要 教員（農業）、学芸員、NGO、マスメディア、出版などに携わる人材の養成

	1年生		2年生		3年生		4年生		科目区分別 単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
中・専共選科目	導入科目（必修）	2	情報基礎（二）	2					7	
	情報基礎（一）	2	共通演習						2	
	スポーツ・レクリエーション（一）	1	スポーツ・レクリエーション（二）	1					0	
	課題別科目								0	
中・専共選科目	リメディアル教育科目								0	
	就職準備科目								0	
	基礎英語科目（必修）	2	英語（二）	2	英語（四）				8	
	実用英語科目					英会話（一）	2	英会話（二）	4	
中・専共選科目	必修外国語関係科目								0	
中・専共選科基礎科目	別添科目（選択必修）								4	
	別添科目（選択必修）								4	
	別添科目（選択必修）								4	
	別添科目（選択必修）								4	
中・専共選科基礎科目	生物学 化学	2							2	
	専門共通科目	2							2	
	衛生科目								0	
	専門基礎科目（必修）	2							9	
中・専共選科基礎科目	国際食農科学総論	2							2	
	栄養食品科学	2								
	食農基礎実験	1								
	船舶生産・生理学	2								
中・専共選科専門科目	専門基礎科目（選択）								2	
	専門コア科目（必修）								28	
	専門コア科目（選択）								16	
中・専共選科専門科目										
中・専共選科専門科目	食農基礎実習（通年）	1	食農専門実習（通年）	1	国際食農科学演習（一）	2	国際食農科学演習（二）	2	国際食農科学演習（四）	
	食農基礎演習（通年）	2	食農専門演習（通年）	2	食品加工・衛生学実験	2	食農フーパードスタディ	2	卒業論文（4単位）	
	総合化科目（必修）								32	
	総合化科目（選択）								2	
セマスター別単位数		18	22	17	21	20	16	2	8	124

コース

食農事業実践者

概要 農業経営、食農起業、フードスペシャリスト、食品産業などに携わる人材の養成

		1年生	2年生	3年生	4年生	3年生	4年生	4年生	単位	科目区分別 単位数
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
総合教育科目	導入科目(必修)	フレンジュマゼンセミナー 情報基礎(二)	2							7
	基礎科目	2情報基礎(一)	1							0
	基礎科目									0
	リマティアル教育科目									0
外国語科目	就職準備科目									0
	基礎英語科目(必修)	英語(一)	2英語(二)	2英語(三)	2英語(四)	2				8
	実用英語科目									4
	初修外国語関係科目					英語リーディング(一)	2英語リーディング(二)	2		0
専門教育科目	専門基礎科目(選択必修)									4
	専門基礎科目(選択必修)	法学入門	2日本国憲法	2環境倫理	2					4
	専門基礎科目(選択必修)	生物学	2数学							4
	専門共通科目	教養学入門	2							4
専門教育科目	新生型科目	地域再生・活性化	2							2
	専門基礎科目(必修)	国際食農科学総論	2							9
	専門基礎科目(必修)	植物生産・生理学	2							0
	専門基礎科目(必修)	栄養食品科学	2							0
専門教育科目	専門基礎科目(選択)									28
	専門コア科目(必修)	食農野英学	2食品衛生学	2食農政策法制論	2農業経営学	2				
	専門コア科目(必修)	食品加工学	2食品材料科学2	2農村社会学	2国際食農商品戦略論	2				
	専門コア科目(必修)	食品材料科学1	2食農作物学	2地域活性化論	2					
専門教育科目	専門コア科目(選択)	国際食農文化資源論	2消費経済学	2比較農業史	2					
	専門コア科目(選択)	フードベジタリアスト論	2調理学	2持続的農業論	2フードコーディネート論	2				
	専門コア科目(選択)	グローバルイノベーションと食品流通	2	2食品機能学	1比較食文化史	2				
	専門コア科目(選択)			2食農果樹学	2					15
専門教育科目	総合化科目(必修)	食農基礎実習(通年)	1	食農専門実習(通年)	1	国際食農科学演習(一)	2国際食農科学演習(二)	2国際食農科学演習(三)	2国際食農科学演習(四)	2
	総合化科目(必修)	食農基礎実習(通年)	2	食農専門実習(通年)	2	2食品加工・衛生学実験	2食農フィールドスタディ	2卒業論文(4単位)	4	13
	総合化科目(選択)									3
	総合化科目(選択)									3
セマスター別単位数		21	21	19	19	19	19	17	2	124

生命科学部 バイオサイエンス学科【時間割表】＜入学生定員140名＞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後期	1年次			2年次			3年次			4年次		
	区分	科目名	配当教室	区分	科目名	配当教室	区分	科目名	配当教室	区分	科目名	配当教室
月	必	里山生態学概論	111	日	日本憲法	232	河	川水文学	212			
	1	ドイツ語(二)A	321									
		中国語(二)A～C	221、222、223									
	2	ドイツ語(二)B	221									
		中国語(二)D～E	223、224	必	地理情報システム論	211	国	際関係と社会問題	212			
	3	スポーツ・レクリエーション(二)AB	アリーナ									
火	4			必	合意形成デザイン論	211						
	5											
	6											
	1	必:施設材料学	311	必	農域防災論	111	農	地保全学	211			
	2			必	環境教育学	111	文	化産業・観光計画学	211			
	3	科学の歴史	232	野	生動物資源の管理	111					必:地域創成関連法規	212
水	4	必:情報基礎(二)AB	コンピ2・3、4				環	境修復論	412			
	5											
	6	インターナショナル・スタディーズ(二)	141				イン	ター・ジャップ	142			
	1			必	地域創成総合実習(二)	—						
	2	必:農村・都市交流論	112	必	地域創成総合実習(二)	—	作	物栽培管理学	413			
	3			必	地域創成総合実習(二)	—	土	壤肥科学	413			
木	4			必	地域創成総合実習(二)	—						
	5											
	6											
	1	地球環境と政策循環	231				必	農域空間情報論	213			
	2			必	自然再生施工論	112	TOEIC英語中級A～C	321、322、323				
	3	必:地域創成フィールド実習(一)	—									
金	4	必:地域創成フィールド実習(一)	—									
	5	必:共通演習	132									
	6											
	1	文学概論	111	ビ	ジネスマナー	131						
	2			地	域と文化	213						
	3	必:英語(二)A～D	221、222、223、224	必	英語(四)A～D	211、212、311、321	必	専攻実験・実習(一)	—			
集	4	物理学	244				必	専攻実験・実習(一)	—			
	5											
	6											
				必:地域創成総合実習(一)	—							

後期	1年次			2年次			3年次			4年次		
	区分	科目名	配当教室	区分	科目名	配当教室	区分	科目名	配当教室	区分	科目名	配当教室
月	1	必:情報基礎(二)AB	コンピ1、4		中国語(四)A	112						
	2	スホーウ・レクリエーション(二)AB	アリーナ		必:食品衛生学	241		必:農業経営学	541			
	3	必:食農基礎実験	1883、1884					必:国際食農商品戦略論	541			
	4	必:食農基礎実験	1883、1884		調理学	333		農業生産と気象	541			
	5				食農と協同組合	341						
	6											
火	1	フランス語・ポルトガル語(二)A	112		TOEIC英語(二)A～F	221、222、223、224、321、322		学習と参加の理論	344			
		中国語(二)	113		グローバル・ゼミ・プロジェクト	241						
	2	必:植物生産・生理学	233		タイ語(二)A	224		フードコーディネート論	344			
		フランス語・ポルトガル語(二)B	112									
	3	インドネシア語(二)A～B	212、213		地学	244		必:国際食農科学演習(二)	344		食農とメディア	341
	4	スペイン語(二)A	311									
水	1	インドネシア語(二)C～D	312、313									
	2	数学	331		必:食品材料学(二)	244					必:国際食農科学演習(四)	341
	3	スペイン語(二)B	111									
	4	タイ語(二)B	112									
	5	物理学	233									
	6	日本国憲法	132									
木	1	日本史	142		地理学	242		インターンシップ	142			
	2	必:国際食農教育・学習論	241		食農文化論	244						
	3	必:英語(二)A～C	312、313、412		必:食農作物学	341		農村女性論	333		ビジネス英語A～C	521、522、523
	4	ハンガール・韓国語(二)A	111		必:消費経済学	341		行動経済学	244			
	5	経営学入門	142		スペイン語(四)	313		比較食文化史	244			
	6	ハンガール・韓国語(二)B	111					植物育種学	241			
金	1	必:食農基礎実習	伊勢原農場		必:食農専門実習	伊勢原農場						
	2	必:食農基礎実習	伊勢原農場		必:食農専門実習	伊勢原農場		英会話(二)A～C	213、223、324			
	3	必:食農基礎実習	伊勢原農場		必:食農専門実習	伊勢原農場		調理学実習	調理第一			
	4	必:食農基礎実習	伊勢原農場		必:食農専門実習	伊勢原農場		調理学実習	調理第一			
	5											
	6											
土	1	スペイン語(二)C	112		中国語(四)B	113						
	2	スペイン語(二)D	112		フランス語(四)A	113		英語リーディング(二)	211			
	3	必:共通演習	233		フランス語(四)B	411		食品機能学実験	1883、1884			
	4				中国語(四)C	412		食品機能学実験	1883、1884			
	5				必:英語(四)A～C	211、212、225						
	6											
集中					必:食品分析学実験			食農フィールドスタディ				
					必:食農ファームステイ							

世田谷キャンパス 教室利用状況台帳

生命:生命科学部、バイオ:バイオサイエンス学科、
分化:分子生命化学科、分微:分子微生物学科
創成:地域創成科学科、食農:国際食農科学科 (それぞれの学科名の後ろは学年を示す)
「×」:既設学科にて教室配当済み

資料 7

前学期/月曜日

教室名	定員	1限	2限	3限	4限	5限	6限
111	92	食農2		創成2	創成2		×
112	92	創成3	創成3	創成3	創成3		
113	92	×	×	×			×
131	304	×	×	食農2	創成1	×	
132	304		×	食農1	食農1	生命1	
141	306	×	食農2	×	×	生命1	
142	306	×	生命2	×	×	×	
211	92	×	×	×			
212	92	創成1		×		×	
213	92	×		×			
221	46	創成1	創成1	×			
222	46	創成1	創成1	×	×		
223	46	創成1	創成1	×			
224	46	創成1		×	×		
225演習室	24						
231	232	×	×	×	×	創成1	創成1
232	232	×		×		全学1	全学1
233	169		分化3	分化3	×		×
241	169		食農2	食農2	×		
242	232	×	×	×	×		
243	232	×					
244	169		分化1	分化1	×		
311	92	分化1	×	×			
312	92	分化1		×			
313	92	分化1	×	×			
321	46	分化1		×			
322	46	×	×	×			
323	46	×	×	×			
324	46	×	×			×	
325演習室	24						
331	232	×	×	×	×		
332	232	×		×			
333	169	分微2	分微1		×		
341	169		バイオ3		食農2		
342	232		×	×	×		
343	232	×	×	×			
344	169		×	バイオ2	バイオ1		
411	92	分化2	×	×		×	
412	92	分化2		×			
413	92	分化2		生命1	生命1		
421演習室	40	分化2	×				
422演習室	40	分化2	×				
423演習室	24						
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24			×			
431	232		×	×	×		
432	232						
433	169			×	×		
441	169				食農1		
442	232			×	×		
443	232				×		
444	169			バイオ3	バイオ3	バイオ3	
511	92	×		×	×	×	
512	92	×		×			
513	92	分化1					
521演習室	40						
522演習室	40						
523演習室	24						
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232		×	×	×		
532	232		×	×			
533	169		食農3	食農3	食農3		
541	169		×		×		
542	232	×	×	×			
543	232	×	×		×		
544	169			×			
621演習室	40						
622演習室	40						
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169			分微3	分微3	分微3	
633	169						
コンピ1	104	食農1	×		×	×	
コンピ2	48		×		×		
コンピ3	48		×		×		
コンピ4	104	食農1	×	×	×	×	×
コンピ5	64	×	×	×	×		
百周年	1083			×			
アリーナ		分微1	食農1				
使用教室		42	42	50	36	14	6
総数		84	84	84	84	84	84
稼働率		50%	50%	60%	43%	17%	7%

前学期／火曜日

教室名	定員	1限	2限	3限	4限	5限	6限
111	92	生命1	生命1		食農1		
112	92				食農1		
113	92		×		分微2	×	×
131	304	×	×	×		×	
132	304		×			生命1	
141	306	食農2		×		食農1	
142	306	食農2		×	×	×	
211	92	創成1	創成1	創成1	×		
212	92	創成2	創成2	創成2	創成2		
213	92	創成3	創成3	創成3	×		
221	46	食農2	×	食農1	×		
222	46	食農2	食農1	食農1	×		
223	46	食農2	食農1	食農1	×	×	
224	46	食農2	食農1		×	×	
225演習室	24				×		
231	232	×	×		創成1	創成1	
232	232					生命1	
233	169		×	×	×		
241	169	×	食農2	×	食農1	分微4	
242	232	×		×	食農2		
243	232	×		×			
244	169	×	食農2	×	分微3		
311	92				×		
312	92			×	分微2		
313	92				×		
321	46	食農1	食農1				
322	46	食農1	×		×		
323	46	食農2	×		×		
324	46	食農2	×		×		
325演習室	24						
331	232			×	×		
332	232	×	×	×	×		
333	169		×	×	食農4		
341	169	食農3	食農3	食農3			
342	232	×					
343	232	×	×		×		
344	169	分化1	食農1	分化1			
411	92		×		×		
412	92		生命3	×			
413	92						
421演習室	40				×		
422演習室	40				×		
423演習室	24						
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24		×				
431	232						
432	232	×	×	×			
433	169	分微2	分微2	分微1	分微1		
441	169	バイオ3	バイオ1	バイオ1			
442	232		×	バイオ3	バイオ3	バイオ3	
443	232						
444	169		バイオ2	バイオ2	×		
511	92		×				
512	92						
513	92			×			
521演習室	40				×		
522演習室	40				×		
523演習室	24						
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232	×	×				
532	232	×	×		×		
533	169	×	×	×	×		
541	169		分化2	×	×		
542	232		×				
543	232		×		×		
544	169		×				
621演習室	40				×		
622演習室	40				×		
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169						
633	169						
コンピ1	104	×	×	×			
コンピ2	48	×		×	創成1	×	×
コンピ3	48	×		×	創成1	×	×
コンピ4	104	×	×	×	創成1		×
コンピ5	64	×					
百周年	1083	×		×			
アリーナ		×	×	×	×		
使用教室		38	43	35	45	13	4
総数		84	84	84	84	84	84
稼働率		45%	51%	42%	54%	15%	5%

前学期／水曜日

教室名	定員	1限	2限	3限	4限	5限	6限
111	92	生命1	×	×	食農2		
112	92		×	×	生命1		
113	92	×	×	×			
131	304				×		
132	304	×	×				
141	306	生命2	×	×		×	
142	306	生命2	×		×	全学1	全学1
211	92	創成4	創成4				
212	92	×	創成1	×	×	×	
213	92		食農1	×			
221	46	創成1	×		×		
222	46	創成1	×				
223	46	創成1	食農1		×	×	
224	46		×	×		×	×
225演習室	24						
231	232		×	×	食農1	×	
232	232		×	×	×	創成1	創成1
233	169	食農3	食農3	食農1	食農1	×	分微3
241	169		分化1	分化1		×	
242	232	バイオ3	バイオ3	×	×		
243	232	×	×	食農1	×		
244	169		×	×	×	×	
311	92		×	×	×		
312	92		創成3	×			
313	92		×		創成3		
321	46		×		×		
322	46		×	×	×		
323	46	×	×		×		
324	46	×	×		×		
325演習室	24		×				
331	232		バイオ1		×		
332	232	×	×	×	×		
333	169		×	食農1	×		×
341	169		分化4	×		×	
342	232	×	×	×			
343	232	×	×	×	×		
344	169	分化3	分化3	分化3			
411	92	×	×	×			
412	92		食農1	×	×	×	
413	92	×	×	×	×		
421演習室	40		×	×	バイオ4		
422演習室	40		バイオ2	×	バイオ4		
423演習室	24	×	×				
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24		×				
431	232	×	×				
432	232	×	×				
433	169	×	×				
441	169	食農2	食農2	食農2			
442	232	×					
443	232	×	×	×	×		
444	169		×	×	×		
511	92	×	×				
512	92	×	×				
513	92	×	×	×			
521演習室	40		食農4	×	バイオ4		
522演習室	40		食農4	×	バイオ4		
523演習室	24		食農4				
524演習室	24		バイオ2				
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232	×					
532	232	×	×	×	×		
533	169		×				
541	169		分微2	分微3			
542	232	×	×	×	×		
543	232	×	×	×	×	×	×
544	169						
621演習室	40		分化2		バイオ4		
622演習室	40		分化2		バイオ4		
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169						
633	169						
コンピ1	104		×	×	バイオ1		
コンピ2	48	分化1	×	×	バイオ1		
コンピ3	48	分化1	×	×	バイオ1		
コンピ4	104	分化1	×	×	バイオ1		
コンピ5	64				分微3	分微3	
百周年	1083					×	×
アリーナ		×	×	×	×		
使用教室		39	67	43	42	15	7
総数		84	84	84	84	84	84
稼働率		46%	80%	51%	50%	18%	8%

前学期／木曜日

教室名	定員	1限	2限	3限	4限	5限	6限
111	92	分微1		創成3	創成3	×	
112	92	分微1	×		×		×
113	92	×			×		
131	304	×	×	×	×	創成1	創成1
132	304			×	×		
141	306			×	×	×	
142	306		×	×	×	全学1	全学1
211	92	分微1		創成2	創成2		
212	92	分微1	創成1	×	創成1		
213	92	分微1		×	×		
221	46	創成3	創成3	×			
222	46	創成3	創成3	×	×		×
223	46		×	×		×	
224	46		×	×	×		
225演習室	24						
231	232	×	×	×	×		
232	232			×			
233	169	食農1	食農1	×			
241	169	食農2	食農2				
242	232	×	×	×	×		
243	232	×	×			×	
244	169	バイオ1	バイオ1				×
311	92	分微2			×		
312	92	分微2			×		
313	92	分微2			×		
321	46	×	創成3	×			
322	46	分微2	食農3				
323	46	分微2	食農3	×			
324	46		食農3	×	×		
325演習室	24						
331	232	×	×	×	生命1	×	
332	232	×	×				
333	169		分微1	×			
341	169		分微2	×			×
342	232		×		×	×	
343	232	×	×				
344	169		バイオ2	分微3	分微3	分微3	
411	92			×	×		
412	92	×			×		
413	92						
421演習室	40		×	生命1	×		
422演習室	40		×	生命1	×		
423演習室	24		×	生命1	×		
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24						
431	232	×		×	×		
432	232	×	×	×			
433	169			×	×		
441	169		×	×	×	×	
442	232	×	×				
443	232	×	×	×	×		
444	169	×	分化3	分化3	分化3		
511	92					×	
512	92						
513	92						
521演習室	40		×				
522演習室	40		×				
523演習室	24						
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232	×					
532	232		×	バイオ2	バイオ2	バイオ2	
533	169	分化2	分化2	分化2			
541	169				×		
542	232	×	×	×	×		
543	232		×		×		
544	169						
621演習室	40		×				
622演習室	40		×				
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169	バイオ3	バイオ3	バイオ3	バイオ3	バイオ3	
633	169						
コンピ1	104	×	×				
コンピ2	48	×	×	×	×		
コンピ3	48	×	×	×	×		
コンピ4	104	×		×	×	×	×
コンピ5	64	×	×	×	×		
百周年	1083						
アリーナ							
使用教室		39	46	41	40	14	7
総数		79	79	79	79	79	79
稼働率		49%	58%	52%	51%	18%	9%

前学期／金曜日

教室名	定員	1限	2限	3限	4限	5限	6限
111	92	創成1	創成2	×	×		×
112	92	食農1	創成2	×	×		
113	92	食農2	創成2	×	×		
131	304	×	×	×	×	創成1	
132	304	×	×	×	×	創成1	
141	306		×	×	×	×	
142	306	食農1	食農1		食農1	全学	全学1
211	92	バイオ1	創成2	×	×	×	
212	92	バイオ1	食農1	×	×		
213	92	バイオ1	食農1	創成1	×	×	
221	46	バイオ1	×	食農3	×		
222	46	バイオ1	創成1	食農3	×		
223	46	バイオ2	創成1	食農3	×		
224	46	バイオ2		食農3	食農2		
225演習室	24						
231	232		×	×	×	×	
232	232				創成1	創成1	創成1
233	169	食農3	食農3	分微3			分微3
241	169		分化1	バイオ3			
242	232	×	×		×		
243	232		×	×			
244	169		分微1	分微1		×	×
311	92	バイオ2	食農2		×		
312	92	×	×	創成2	×		
313	92	バイオ2		×	×		
321	46	×	創成1		×		
322	46	×	×	×	食農2		
323	46	×	×	×	食農2		
324	46	×	×	×	×		
325演習室	24						
331	232				×		
332	232	×	×	×	×		
333	169		バイオ1	×	×		
341	169	×	食農2	食農1			
342	232		×	×	×		
343	232	×	×				
344	169	×	×	分微2			
411	92	バイオ2		食農2	×		
412	92			食農2	×		
413	92		×	食農3			
421演習室	40		創成1		×		
422演習室	40				×		
423演習室	24						
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24			×	×		
431	232			×			
432	232	×	×	×			
433	169		分化2	分化2			
441	169	×	×	×	×		
442	232	×	×	×	×		
443	232	×					
444	169		バイオ2	×			
511	92	×	×	×	×		
512	92	×	×	×	×		
513	92	×	×	食農3	×		
521演習室	40				×		
522演習室	40				×		
523演習室	24						
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232	×	×	×	×		
532	232		×		×		
533	169						
541	169						
542	232	×	×	×	×		
543	232		×				
544	169			×	×		
621演習室	40						
622演習室	40						
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169		×	バイオ2	バイオ2	バイオ2	
633	169						
コンピ1	104	分微1		×			
コンピ2	48			×			
コンピ3	48			×			
コンピ4	104	分微1		×			
コンピ5	64		×	×	×		
百周年	1083						
アリーナ		分化1	×	×			
使用教室	39	48	51	46	10	5	
総数	79	79	79	79	79	79	
稼働率	49%	61%	65%	58%	13%	6%	

世田谷キャンパス 教室利用状況台帳

生命:生命科学部、バイオ:バイオサイエンス学科、
 分化:分子生命化学科、分微:分子微生物学科
 創成:地域創成科学科、食農:国際食農科学科 (それぞれの学科名の後ろは学年を示す)
 「×」:既設学科にて教室配当済み

後学期/月曜日

教室名	定員	1	2	3	4	5	6
111	92	創成1	×	×			
112	92	食農2	×	×		×	×
113	92	×	×	×			×
131	304	×			×		
132	304		×	×			
141	306	×	×	×			
142	306	×			×		
211	92	分化1		創成2	創成2		
212	92	創成3		創成3	×	×	
213	92	分化1		バイオ4			
221	46	創成1	創成1	×			
222	46	創成1	×	×			
223	46	創成1	創成1	×			
224	46	×	創成1	×			
225演習室	24		×				
231	232		×	×	×	×	
232	232	創成2	×	×	×	×	
233	169	×	×	×	×		
241	169	バイオ3	食農2	×	×		×
242	232		×	×	バイオ1	×	
243	232		×		×		
244	169	生命1	生命1				
311	92	×		×			
312	92	×		×	×		
313	92	×	×	×			
321	46	創成1		×	×		
322	46	分化1		×			
323	46	×	×	×			
324	46	分化1	×	バイオ4		×	
325演習室	24						
331	232		×				
332	232	×	×	×	×		
333	169		生命3	×	食農2		
341	169		分微2	×	食農2		
342	232		×		×		
343	232						
344	169		×	分微3	分微3		
411	92	分化1		×		×	
412	92	×		×			
413	92	分化2		×			
421演習室	40				×		
422演習室	40	×					
423演習室	24				×		
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24			×			
431	232				×		
432	232				×		
433	169		×		×		
441	169		×				
442	232		×	×	×		
443	232		×	×	×		
444	169			バイオ4	×		
511	92	分化2		×			
512	92	分化2		バイオ4			
513	92	分化2		バイオ4			
521演習室	40	分化2					
522演習室	40						
523演習室	24						
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232		×	×	×		
532	232		×				
533	169		バイオ1	バイオ4	×		
541	169		食農3	食農3	食農3		
542	232	×		×	×	×	
543	232	×	×	×	×		
544	169						
621演習室	40						
622演習室	40						
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169						
633	169						
コンピ1	104	食農1	×		×		
コンピ2	48		×		×	×	×
コンピ3	48		×		×	×	×
コンピ4	104	食農1	×		×	×	
コンピ5	64						
百周年	1083			×			
アリーナ		×	食農1				
使用教室	38	40	44	34	11	5	
総数	84	84	84	84	84	84	
稼働率	45%	48%	52%	40%	13%	6%	

後学期／火曜日

教室名	定員	1	2	3	4	5	6
111	92	創成2	創成2	創成2	食農1		
112	92	食農1	食農1		食農1		
113	92	食農1	×	×	×		
131	304			×			
132	304	×	×	×	×	食農1	
141	306						全学1
142	306		×		×		全学3
211	92	創成3	創成3		×	×	
212	92	×	食農1	創成4	×		
213	92		食農1		×		
221	46	食農2	×	×	×		
222	46	食農2	×	×	×		
223	46	食農2	×		×	×	
224	46	食農2	食農1		×	×	
225演習室	24				×		
231	232			×	×	×	
232	232			創成1		生命1	
233	169	×	食農1		食農1		
241	169	食農2		分微3	分微3		
242	232	×	×	×	×		
243	232		×	×		×	×
244	169	分微2	分微2	食農2	食農2		
311	92	創成1		食農1	×		
312	92	生命1	生命1	食農1			
313	92		×	食農1	×		
321	46	食農2					
322	46	食農2	×	×			
323	46		×				
324	46		×		×		
325演習室	24						
331	232	×	×	食農1	×		
332	232		×				
333	169	バイオ1	×		×		
341	169		×	食農4	食農4		
342	232	×	×				
343	232	×	×	×	×		
344	169	食農3	食農3	食農3			
411	92				×		
412	92		×		創成3		
413	92						
421演習室	40				×		
422演習室	40				×		
423演習室	24				×		
424演習室	24				×		
425演習室	24						
426演習室	24		×				
431	232	×	×	×			
432	232	×					
433	169	×	×		×		
441	169	×		バイオ2	バイオ2	バイオ2	
442	232		×				
443	232			×			
444	169	×					
511	92						
512	92		×	×			
513	92			×			
521演習室	40				×		
522演習室	40				×		
523演習室	24				×		
524演習室	24				×		
525演習室	24				×		
526演習室	24						
531	232		×	×			
532	232	×	×	×	×		
533	169	分化3	分化3	×			
541	169	分化1		分化1	分化1		
542	232		×	×	×		
543	232		×	×			
544	169	バイオ2	バイオ2				
621演習室	40						
622演習室	40			×			
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169		バイオ3	バイオ3			
633	169						
コンビ1	104	×	×	×			
コンビ2	48	×		×	創成1	×	
コンビ3	48	×		×	創成1	×	
コンビ4	104	×	×	×	創成1		×
コンビ5	64	×					×
アリーナ		×	×	×	×		
百周年	1083						
使用教室		38	44	39	45	10	5
総数		84	84	84	84	84	84
稼働率		45%	52%	46%	54%	12%	6%

後学期／水曜日

教室名	定員	1	2	3	4	5	6
111	92		×	食農1	食農1		×
112	92	生命1	創成1	×	生命1	×	
113	92	×	×	×			
131	304	×	×	×	×	×	
132	304			×	×	生命1	
141	306			×	食農1	×	
142	306	食農1	×	食農1	×		
211	92	×	×		×		
212	92		×		×	×	
213	92		×	×			
221	46		×	×	×		
222	46		×	×	×		
223	46		×		×		
224	46		×				×
225演習室	24						
231	232		×		×		
232	232						
233	169		分化1	分化1			
241	169	食農1	×		食農3		
242	232	食農2	×	×	×		
243	232	バイオ2	バイオ1	×	×	×	
244	169	食農2	食農3	食農3	×		
311	92		×				
312	92	×	食農1	×			
313	92		食農1	×	食農2		
321	46		×		×		
322	46		×	×			
323	46	×	×		×		
324	46	×	×	×	×		
325演習室	24						
331	232	×			×		
332	232	×	×	×	×		
333	169		食農3	×	×		
341	169		食農2	食農2	×		
342	232	×			×		×
343	232			×			
344	169	×	×		×		
411	92	×	×	×			
412	92		食農1	×		×	×
413	92		創成3	創成3			
421演習室	40	×	×	×			
422演習室	40	×		×			
423演習室	24						
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24						
431	232						
432	232						
433	169	分微2	分微2	バイオ2	バイオ2	バイオ2	
441	169	バイオ3	バイオ3	バイオ3			
442	232				×		
443	232		×	×	×		
444	169	×	×				
511	92	×	×				
512	92	×	×				
531	92	×	×				
521演習室	40		食農4	×			
522演習室	40		食農4				
523演習室	24		食農4				
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232	×	×		×		
532	232	×	×	×	×	×	
533	169		×				
541	169						
542	232			×	×		
543	232	×	×			×	×
544	169	分化2	分化2		×		
621演習室	40			×			
622演習室	40						
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169						
633	169						
コンピ1	104			×	バイオ1		
コンピ2	48	分化1	×	×	バイオ1		
コンピ3	48	分化1	×	×	バイオ1		
コンピ4	104	分化1		×	バイオ1		
コンピ5	64				×		
アリーナ		×	×	×	×		
百周年	1083	×		×			
使用教室		34	51	40	39	10	5
総数		84	84	84	84	84	84
稼働率		40%	61%	48%	46%	12%	6%

後学期／木曜日

教室名	定員	1	2	3	4	5	6
111	92			バイオ1			
112	92		創成2	×			
113	92	分微1		バイオ1			
131	304	×		×	×	×	
132	304	×	×	×	×	創成1	
141	306	×	×	×	×		
142	306	×		×	×	×	
211	92	×	×	×		×	×
212	92		×	×	×	×	
213	92	創成3	食農3	×	×		
221	46	分微1	×	生命1	×		
222	46	分微1	×	生命1	×		
223	46	分微1	食農3	生命1	×	×	
224	46	分微1	×		×		
225演習室	24						
231	232	創成1	×	×	×		
232	232	×	×				
233	169						
241	169	分化3	分化3	分化3		×	
242	232		×	×	×	×	
243	232			×	×		
244	169		×	×	生命1		×
311	92			×	×		
312	92			×	×		
313	92	分微2		バイオ1	×		
321	46	分微2	創成3	バイオ3	×		
322	46	分微2	創成3	バイオ3	×		
323	46	分微2	創成3	バイオ3	生命1		
324	46	分微2	食農3	バイオ3	生命1		
325演習室	24						
331	232			×	×		
332	232	×	×	×			
333	169	バイオ1	バイオ1				
341	169	食農1	食農1		×	×	
342	232	×	×	×			
343	232		×	×			
344	169	食農2	食農2		×		
411	92		×	×			
412	92				×	×	
413	92		×	×			×
421演習室	40		×	バイオ3	×		
422演習室	40		×	バイオ3			
423演習室	24		×				
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24		×				
431	232		×	×	×		
432	232			×	×		
433	169		×				
441	169	分化2	分化2	分化2		×	
442	232			×	×		
443	232			×	×		
444	169	バイオ2	バイオ2				
511	92						
512	92						
513	92						
521演習室	40		×				
522演習室	40		×				
523演習室	24						
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232		×		×		
532	232	×	×		×		
533	169	分微4	×				×
541	169	×	分微1				
542	232			×	×	×	
543	232				×	×	
544	169			バイオ2	バイオ2	バイオ2	
621演習室	40		×				
622演習室	40		×				
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169						
633	169						
コンピ1	104	×	×		×		
コンピ2	48	×	×				
コンピ3	48	×	×				
コンピ4	104	×		×	×		
コンピ5	64				×		
百周年	1083						
アリーナ							
使用教室		33	46	41	38	14	4
総数		84	84	84	84	84	84
稼働率		39%	55%	49%	45%	17%	5%

後学期／金曜日

教室名	定員	1	2	3	4	5	6
111	92	創成1	食農1	×	×	×	
112	92	食農1	食農1	×	×		
113	92	食農2	食農2	×	×		
131	304	創成2	×	×	×	×	
132	304			×	×		
141	306		×	×	×		
142	306		×	×			
211	92	バイオ1	食農3	創成2	食農2		×
212	92	バイオ1		創成2	食農2		
213	92	バイオ1	創成2	×	×		
221	46	バイオ1		創成1	×		
222	46	バイオ1		創成1	×		
223	46			創成1	×		
224	46			創成1	×		
225演習室	24				食農2		
231	232	×	×	×		×	
232	232	×	×	×		×	×
233	169		×	食農1			
241	169	分微2	分微1	分微1	分微1		
242	232	×	バイオ1	×	×	×	
243	232	食農1	×	×			
244	169		分化1	分化1	創成1		
311	92	バイオ2		創成2	×		
312	92	バイオ2		×	×		
313	92	バイオ2		×	×		
321	46	バイオ2		創成2	×		
322	46	バイオ2		×	×		
323	46			×	×		
324	46			×	×		
325演習室	24						
331	232			×			
332	232		×	×	×		
333	169	分化3	分化3	×	×		
341	169		×	×	×		
342	232		×	×			
343	232		×	×			
344	169		×	×			
411	92			食農2	×		
412	92			食農2	×		
413	92				×		
421演習室	40				×		
422演習室	40				×		
423演習室	24						
424演習室	24						
425演習室	24						
426演習室	24			×	×		
431	232	×	バイオ3				
432	232			×			
433	169		分微3	分微3			
441	169	×	×	×	×		
442	232						
443	232			×			
444	169		×				
511	92	×	×	×	×		
512	92	×	×		×		
513	92	×	×		×		
521演習室	40				×		
522演習室	40				×		
523演習室	24						
524演習室	24						
525演習室	24						
526演習室	24						
531	232		×	×	×		
532	232	×	×	×	×		
533	169			バイオ3	バイオ3	バイオ3	
541	169						
542	232		×	×	×		
543	232		×	×	×		
544	169			×	×		
621演習室	40						
622演習室	40						
623演習室	25						
624演習室	25						
625演習室	25						
626演習室	25						
632	169						
633	169						
コンピ1	104	分微1		×			
コンピ2	48			×			
コンピ3	48			×			
コンピ4	104	分微1		×			
コンピ5	64						
アリーナ		×	×	×			
百周年	1083	分化1		×			
使用教室		30	33	55	45	6	2
総数		84	84	84	84	84	84
稼働率		36%	39%	65%	54%	7%	2%

平成32年度 利用教室稼働率＜前学期＞

		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	曜日別計
前学期 月曜日	使用教室	42	42	50	36	14	6	190
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	50%	50%	60%	43%	17%	7%	38%
前学期 火曜日	使用教室	38	43	35	45	13	4	178
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	45%	51%	42%	52%	15%	5%	35%
前学期 水曜日	使用教室	39	67	43	42	15	7	213
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	46%	80%	51%	51%	18%	8%	42%
前学期 木曜日	使用教室	39	46	41	40	14	7	187
	総数	79	79	79	79	79	79	474
	稼働率	49%	58%	52%	51%	18%	9%	39%
前学期 金曜日	使用教室	39	48	51	46	10	5	199
	総数	79	79	79	79	79	79	474
	稼働率	48%	61%	65%	58%	13%	6%	42%
前学期 時限別 小計	使用教室	197	246	220	209	66	29	
	総数	410	410	410	410	410	410	
	稼働率	48%	60%	54%	51%	16%	7%	
前学期 合計	使用教室	967						
	総数	2,460						
	稼働率	39%						

		稼働率	
		0～10%	5
		11～20%	5
		21～30%	0
		31～40%	0
		41～50%	8
		51～60%	9
		61～70%	2
		71～80%	1
		81～90%	0
		91～100%	0

平成32年度 利用教室稼働率＜後学期＞

		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	曜日別計
後学期 月曜日	使用教室	38	40	44	34	11	5	172
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	45%	48%	52%	40%	13%	6%	34%
後学期 火曜日	使用教室	38	44	39	45	10	5	181
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	45%	51%	48%	54%	12%	6%	36%
後学期 水曜日	使用教室	34	51	40	39	10	5	179
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	39%	61%	48%	46%	12%	6%	36%
後学期 木曜日	使用教室	33	46	41	38	14	4	176
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	39%	55%	49%	45%	17%	5%	35%
後学期 金曜日	使用教室	30	33	55	45	6	2	171
	総数	84	84	84	84	84	84	504
	稼働率	36%	39%	65%	54%	7%	2%	34%
後学期 土曜日 小計	使用教室	173	214	219	201	51	21	
	総数	420	420	420	420	420	420	
	稼働率	41%	51%	52%	48%	12%	5%	
後学期 合計	使用教室	879						
	総数	2,520						
	稼働率	35%						

		稼働率
	0～10%	6
	11～20%	4
	21～30%	0
	31～40%	4
	41～50%	9
	51～60%	5
	61～70%	2
	71～80%	0
	81～90%	0
	91～100%	0

世田谷キャンパス 実験実習室利用状況台帳

バイオ:バイオサイエンス学科、分化:分子生命化学科、分微:分子微生物学科、食農:国際食農科学科
「×」:既設学科にて配当済み (それぞれの学科名の後ろは学年を示す)

前学期／月曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			×			
	1852	120			分化2			
生物系	1831	128			×			
	1881	85			バイオ3			
	1882	85			バイオ3			
	1883	64						
	1884	64						
食品系	理化学一	120	×		×			
	理化学二	120	×		×			
	調理第一	90						
	調理第二	98						
	給食	60						
	栄養	100						
	臨床	70						
	食品加工	100						

前学期／火曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			×			
	1852	120			分化2			
生物系	1831	128			×			
	1881	85			バイオ3			
	1882	85			バイオ3			
	1883	64						
	1884	64						
食品系	理化学一	120	×		×			
	理化学二	120	×		×			
	調理第一	90	×		×			
	調理第二	98	×		×			
	給食	60						
	栄養	100						
	臨床	70						
	食品加工	100	×		×			

前学期／水曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			食農3			
	1852	120		×	食農3			
生物系	1831	128		×	食農3			
	1881	85		×	食農3			
	1882	85		×	食農3			
	1883	64		分微3	分微2			
	1884	64		分微3	分微2			
食品系	理化学一	120		×				
	理化学二	120						
	調理第一	90						
	調理第二	98			食農3			
	給食	60						
	栄養	100						
	臨床	70		×				
	食品加工	100			バイオ3			

前学期／木曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			×			
	1852	120			×			
生物系	1831	128						
	1881	85						
	1882	85						
	1883	64		分微3	分微2			
	1884	64		分微3	分微2			
食品系	理化学一	120	×		×			
	理化学二	120	×		×			
	調理第一	90	×		×			
	調理第二	98						
	給食	60	×		×			
	栄養	100	×		×			
	臨床	70						
	食品加工	100						

前学期／金曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			×			
	1852	120			×			
生物系	1831	128						
	1881	85			×			
	1882	85			×			
	1883	64		分微3	分微3			
	1884	64		分微3	分微3			
食品系	理化学一	120	×					
	理化学二	120	×					
	調理第一	90						
	調理第二	98						
	給食	60	×		×			
	栄養	100	×		×			
	臨床	70	×					
	食品加工	100						

後学期／月曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			分化1			
	1852	120			分化2			
生物系	1831	128						
	1881	85						
	1882	85						
	1883	64			食農1			
	1884	64			食農1			
食品系	理化学一	120	×		×			
	理化学二	120	×		×			
	調理第一	90						
	調理第二	98						
	給食	60						
	栄養	100						
	臨床	70						
	食品加工	100						

後学期／火曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			分微1			
	1852	120			分微2			
生物系	1831	128	×			×		
	1881	85			バイオ2			
	1882	85			バイオ2			
	1883	64						
	1884	64						
食品系	理化学一	120	×		×			
	理化学二	120	×		×			
	調理第一	90				×		
	調理第二	98				×		
	給食	60						
	栄養	100						
	臨床	70						
	食品加工	100						

後学期／水曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120		分微1	分化3			
	1852	120			分化3			
生物系	1831	128						
	1881	85			バイオ2			
	1882	85			バイオ2			
	1883	64						
	1884	64						
食品系	理化学一	120		×				
	理化学二	120		×				
	調理第一	90		×				
	調理第二	98						
	給食	60						
	栄養	100						
	臨床	70						
	食品加工	100						

後学期／木曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			×			
	1852	120			×			
生物系	1831	128						
	1881	85			バイオ2			
	1882	85			バイオ2			
	1883	64			分微2			
	1884	64			分微2			
食品系	理化学一	120	×		×			
	理化学二	120	×		×			
	調理第一	90			食農3			
	調理第二	98			食農3			
	給食	60						
	栄養	100						
	臨床	70		×				
	食品加工	100				×		

後学期／金曜日

利用分野	教室名	収容人数	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
化学系	1841	120			×			
	1842	120			×			
	1851	120			×			
	1852	120			×			
生物系	1831	128		×		×		
	1881	85			バイオ3			
	1882	85			バイオ3			
	1883	64			食農3			
	1884	64			食農3			
食品系	理化学一	120				×		
	理化学二	120				×		
	調理第一	90		×		×		
	調理第二	98		×		×		
	給食	60		×		×		
	栄養	100						
	臨床	70						
	食品加工	100						